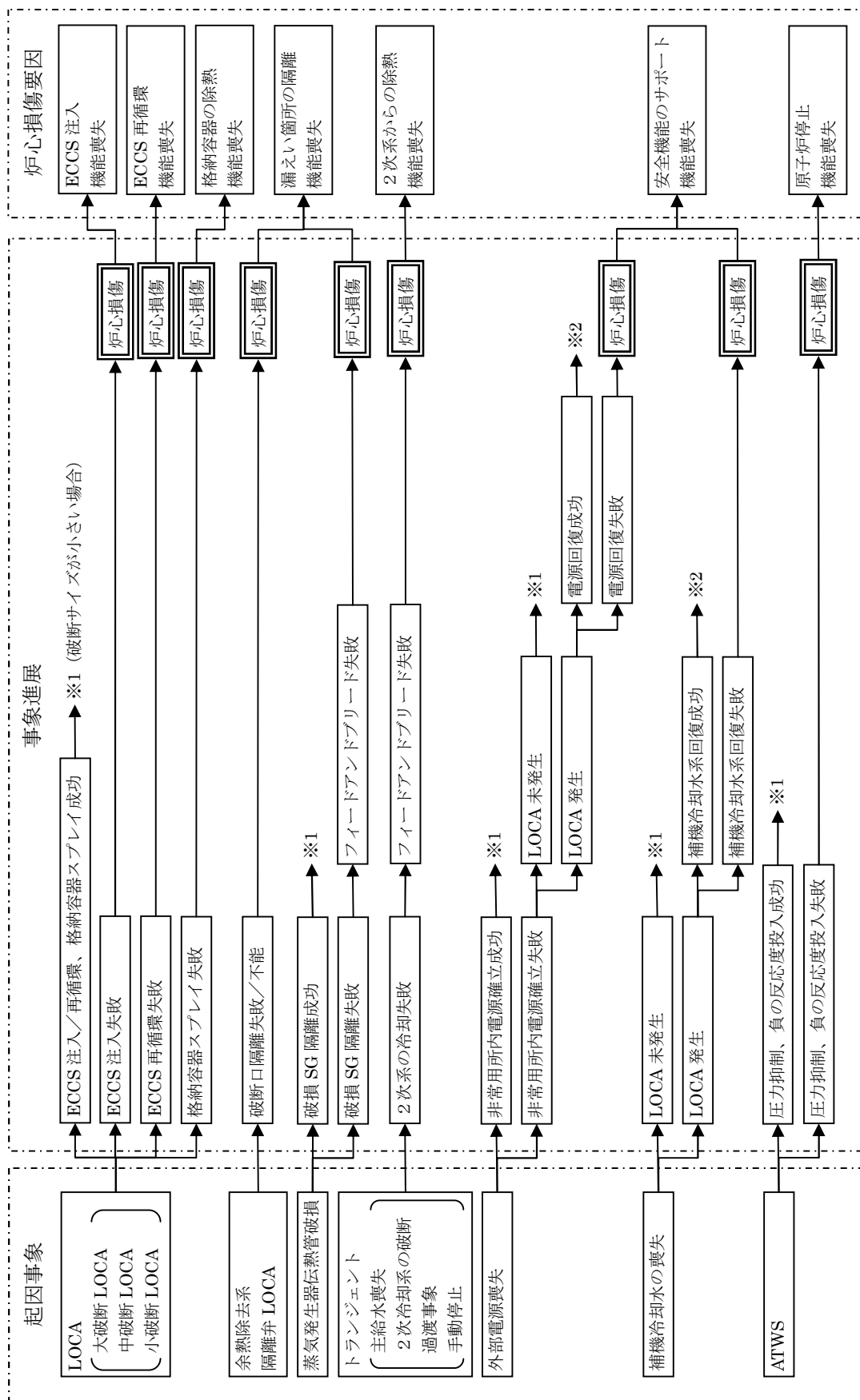
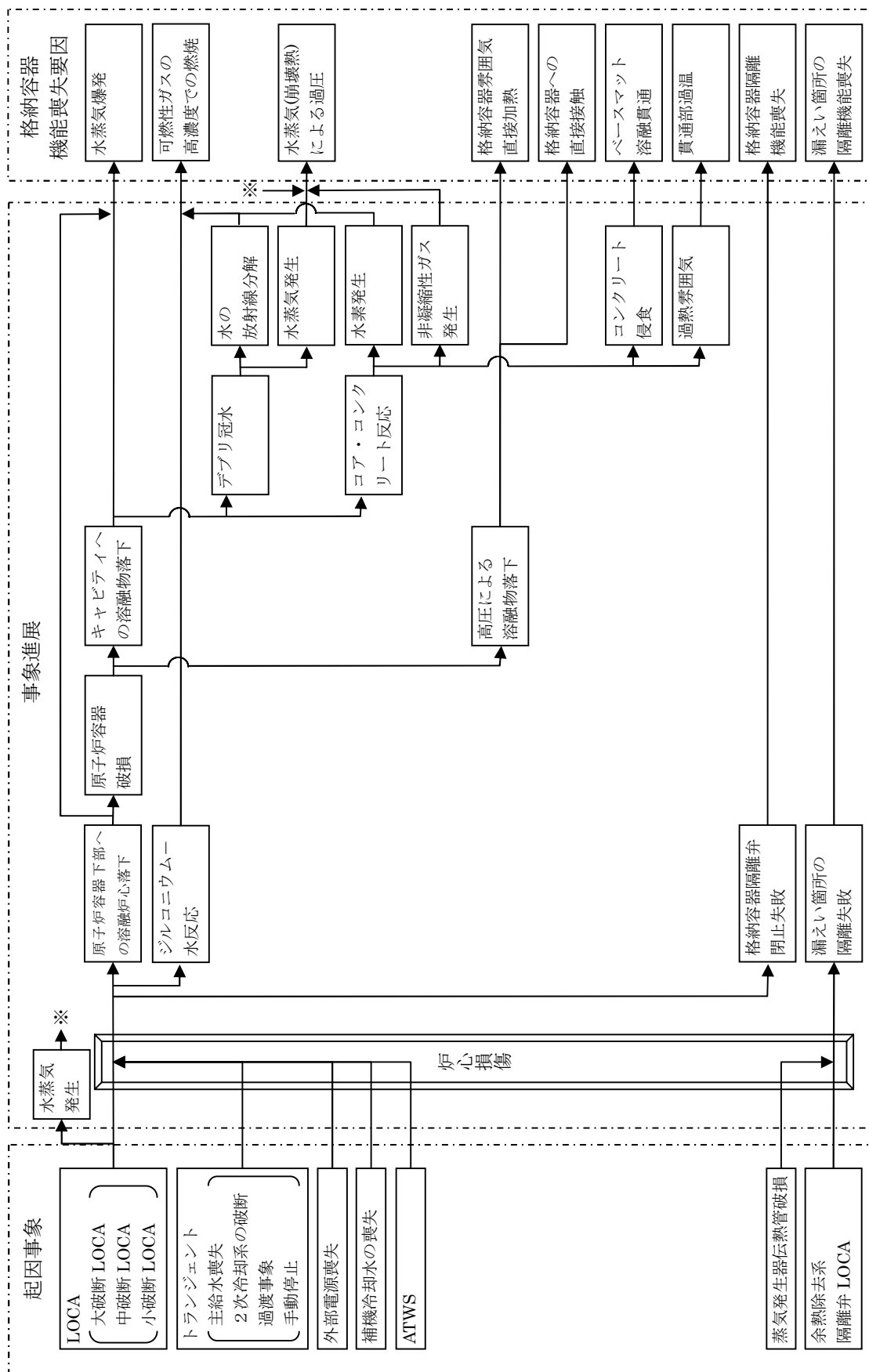


大飯発電所3号機の系統構成
(原子炉補機冷却水系)



※1: 起回事象のトランジェントへ移行、※2: 起回事象の LOCA へ移行

事象進展に係る分類
(炉心損傷)



事象進展に係る分類
(格納容器機能喪失)

AM 検討報告書及び AM 整備報告書で整備した防護措置

| | | |
|---------------|---|--|
| 原子炉の停止機能に係る対策 | ① 手動原子炉トリップ | 負の反応度の投入機能の観点から、手動により制御棒を落下させると共にタービンを停止する。 |
| | ② 緊急ほう酸注入 | 負の反応度の投入機能の観点から、化学体積制御系または非常用炉心冷却設備 (ECCS) の高濃度のほう酸水を原子炉に注水する。 |
| 炉心冷却機能に係る対策 | ③ 緊急 2 次系冷却 | 炉心発生熱の除去機能の観点から、補助給水系を手動起動する。 |
| | ④ 緊急 2 次系冷却の多様化 | 原子炉の停止及び補助給水系の起動に失敗した場合に、主給水系を手動起動し、蒸気発生器 (SG) により炉心発生熱を除去する。 |
| | ① 代替注入 | 運転員が手動で ECCS や化学体積制御系のポンプを起動して原子炉へ注水する。 |
| | ② 2 次系強制冷却による低圧注入 | 原子炉が高圧状態において高圧注入系による注水に失敗した場合の対応として、主蒸気逃がし弁を使用した 2 次系からの除熱で原子炉を冷却・減圧し、蓄圧注入系及び低圧注入系により原子炉へ注水する。 |
| | ③ 2 次系強制冷却による低圧再循環 | 高圧注入系の再循環に失敗した場合の対応として、主蒸気逃がし弁を使用した 2 次系からの除熱で原子炉を冷却・減圧し、低圧注入系の再循環により原子炉へ注水する。 |
| | ④ 2 次系強制冷却によるサンプ水冷却 | 原子炉が高圧状態において非常用格納容器冷却系が作動失敗した場合の対応として、主蒸気逃がし弁を使用した 2 次系からの除熱で 1 次系を通じて格納容器に流出する再循環水を冷却し、沸騰を防止する。 |
| | ⑤ 水源補給による注入継続 | 注入水源である燃料取替用水ピット (RWSP) へほう酸水を補給し、ECCS 注入機能により原子炉へ注水して、ECCS 再循環機能の復旧のための時間余裕を確保する。 |
| ⑥ 代替格納容器気相冷却 | 余熱除去冷却器の機能喪失に対応できるように、非常用格納容器冷却系が作動失敗した場合でも、格納容器再循環ユニットを起動して除熱し、ECCS 再循環機能の復旧のための時間余裕を確保する。 | |
| ⑦ 1 次系注水・減圧 | 原子炉へほう酸水を補給しながら減温・減圧して漏えいを抑制し、余熱除去系により長期的に冷却する。 | |

AM 検討報告書及びAM 整備報告書で整備した防護措置 (続き)

| | |
|-------------|--|
| 炉心冷却機能に係る対策 | <p>⑧代替給水 補助給水系が故障した場合に、主給水系を手動起動する。</p> <p>⑨2次系水源補給 補助給水系の水源へ水を補給または別の水源から水を供給する。</p> <p>⑩フィードアンドブリード 原子炉への高圧注入系による注水と加圧器逃がし弁からの排水により、炉心崩壊熱を除去する。</p> <p>⑪タービンバイパス系の活用 高圧注入系の多重故障等により炉心の冷却に失敗し、さらに主蒸気逃がし弁を用いたSGによる除熱に失敗した場合に、タービンバイパス系を用いてSGによる除熱を行い、原子炉を冷却・減圧することにより、低圧注入系で注入または再循環を行う。</p> <p>⑫代替再循環 ECCS再循環に失敗した場合に、RWSPにほう酸水を補給してECCSによる原子炉への注入を継続しつつ、余熱除去系と原子炉格納容器スプレイ系の接続を行い、当該系統による炉心注入を行う。</p> <p>⑬格納容器内自然対流冷却 原子炉格納容器スプレイ系の作動に失敗し、格納容器圧力が異常に上昇した場合に、格納容器再循環ユニットに原子炉補機冷却水を通水し、格納容器内の水蒸気を凝縮させ格納容器内の雰囲気冷却する。</p> <p>⑭代替補機冷却 原子炉補機冷却水系の機能が喪失した場合に、原子炉補機冷却水系で冷却している高圧注入ポンプ、余熱除去ポンプ等の機器の停止及び2次系強制冷却を実施すると共に、必要に応じてポンプ間欠運転を行うことにより時間余裕を確保し、その間に空調用冷水系を余熱除去ポンプの原子炉補機冷却水系に接続し、余熱除去ポンプの運転を再開する。これにより、原子炉補機冷却水系の復旧のための時間余裕を確保する。</p> <p>⑮クールドアウン&リサーチレーション 蒸気発生器伝熱管損傷等が発生し、漏えい箇所隔離に失敗した場合に、ECCS等により原子炉への注水を確保しつつ、主蒸気逃がし弁等を用いたSGによる除熱及び加圧器逃がし弁等による原子炉の減圧を実施して漏えいを抑制すると共に、余熱除去系により長期的に炉心を冷却する。また、余熱除去系による冷却に失敗した場合はRWSPへほう酸水の補給を行い、フィードアンドブリードを実施した後、ECCS再循環を実施する。</p> |
|-------------|--|

AM 検討報告書及び AM 整備報告書で整備した防護措置 (続き)

| | |
|--------------|---|
| ①代替格納容器気相冷却 | 格納容器再循環ユニットを起動して除熱し、非常用格納容器冷却系の復旧のための時間余裕を確保する。 |
| ②格納容器手動隔離 | 格納容器隔離弁が自動的に閉止されていない場合に手動で閉止する。 |
| ③格納容器内自然対流冷却 | 原子炉格納容器スプレイ系の作動に失敗し、格納容器圧力が異常に上昇した場合に、格納容器再循環ユニットに原子炉補機冷却水を通水し、格納容器内の水蒸気を凝縮させ格納容器内の雰囲気冷却する。 |
| ④格納容器内注水 | 炉心損傷を検知し、さらに原子炉格納容器スプレイ系の作動に失敗した場合に、淡水タンクの水を消火ポンプにより原子炉格納容器スプレイ系のスプレッドヘッドからスプレイすることで格納容器内に注水し、崩壊熱により水蒸気を発生させた上で、その水蒸気を格納容器内自然対流冷却等により凝縮する。さらに、格納容器スプレイ及び格納容器内自然対流冷却の両方に失敗した場合でも、消火ポンプにより淡水タンクの水を原子炉格納容器スプレイ系のスプレッドヘッドからスプレイすることで、崩壊熱を格納容器内液相部に蓄熱して圧力上昇を抑制することができる。これにより、原子炉格納容器スプレイ系または格納容器内自然対流冷却の復旧のための時間余裕を確保する。 |
| ⑤ 1 次系強制減圧 | 高圧注入系の作動失敗及び SG による除熱失敗により原子炉が高圧状態となった場合に、加圧器逃がし弁を手動で開放して原子炉を減圧することにより格納容器雰囲気直接加熱の発生を防止する。 |

放射性物質の閉じ込め機能に係る対策

AM 検討報告書及び AM 整備報告書で整備した防護措置 (続き)

| | |
|------------|--|
| ①電源復旧 | 動力用の交流電源が全て喪失した場合に電源系の回復を図る。 |
| ②直流電源確保 | 動力用の交流電源が全て喪失した場合に事象収束に不要な直流電源からの負荷を切り離して蓄電池を効果的に利用する。 |
| ③補機冷却水系回復 | 原子炉補機冷却水系に異常が発生した場合に原子炉補機冷却水系の回復を図ると共に、必要な機器への冷却水を確保する。 |
| ④代替制御用空気供給 | 制御用空気系喪失時に所内用空気系から供給を受ける。 |
| ⑤代替補機冷却 | 原子炉補機冷却水系の機能が喪失した場合に、原子炉補機冷却水系で冷却している高圧注入ポンプ、余熱除去ポンプ等の機器の停止及び2次系強制冷却を実施すると共に、必要に応じてポンプ間欠運転を行うことにより時間余裕を確保し、その間に空調用冷水系を余熱除去ポンプの原子炉補機冷却水系に接続し、余熱除去ポンプの運転を再開する。これにより、原子炉補機冷却水系の復旧のための時間余裕を確保する。 |
| ⑥号機間電源融通 | 動力用の交流電源が全て喪失した場合に、原子炉施設の安全系機器を手動に切り替えて自動起動しないよう措置した後、隣接する原子炉施設の安全系機器 1 系列の電源が確保されていることを確認してから、残りの 1 系列の非常用ディーゼル発電機から、動力用の交流電源が全て喪失した原子炉施設に電源を融通する。これにより、当該原子炉施設の安全系母線の電圧を確立させ、その後順次安全系機器を手動で起動していく。 |

安全機能のサポート機能に係る対策

防護措置に係る系統概要

| 機能 | 東日本大震災前に 整備した防護措置 | 頁 | 東日本大震災後に 整備した防護措置 | 頁 |
|------------------|---|--|--|------------------------|
| 原子炉の 停止機能 | ①手動原子炉トリップ ②緊急ほう酸注入 ③緊急2次系冷却 ④緊急2次系冷却の多様化 | 2 2 2 2 | | |
| 炉心冷却機能 | ①代替注入 ②2次系強制冷却による低圧注入 ③2次系強制冷却による低圧再循環 ④2次系強制冷却によるサンプル水冷却 ⑤水源補給による注入継続 ⑥代替格納容器気相冷却 ⑦1次系注水・減圧 ⑧代替給水 ⑨2次系水源補給 ⑩フィードアンドブリード ⑪タービンバイパス系の活用 ⑫代替再循環 ⑬格納容器内自然対流冷却 ⑭代替補機冷却 ⑮クールダウン&リサーキュレーション | 3 3 3 3 4 8 5 6 6 6 3 4 8 13 5 | II)緊急時の最終的な除熱機能の確保 | 7 |
| 放射性物質の 閉じ込め機能 | ①代替格納容器気相冷却 ②格納容器手動隔離 ③格納容器内自然対流冷却 ④格納容器内注水 ⑤1次系強制減圧 | 8 10 8 8 9 | iv)水素爆発防止対策 | 11 |
| 安全機能の サポート機能 | ①電源復旧 ②直流電源確保 ③補機冷却水系回復 ④代替制御用空気供給 ⑤代替補機冷却 ⑥号機間電源融通 | 12 12 13 14 13 12 | I)緊急時の電源確保 | 12 |
| その他 | | | III)緊急時の使用済燃料貯蔵槽の冷却確保 i)中央制御室の作業環境の確保 ii)緊急時における発電所構内通信手段の確保 iii)高線量対応防護服等の資機材の確保及び放射線管理のための体制の整備 v)がれき撤去用の重機の配備 | 15 — — — — |

※各頁において、防護措置の識別番号を【 】で補記した。

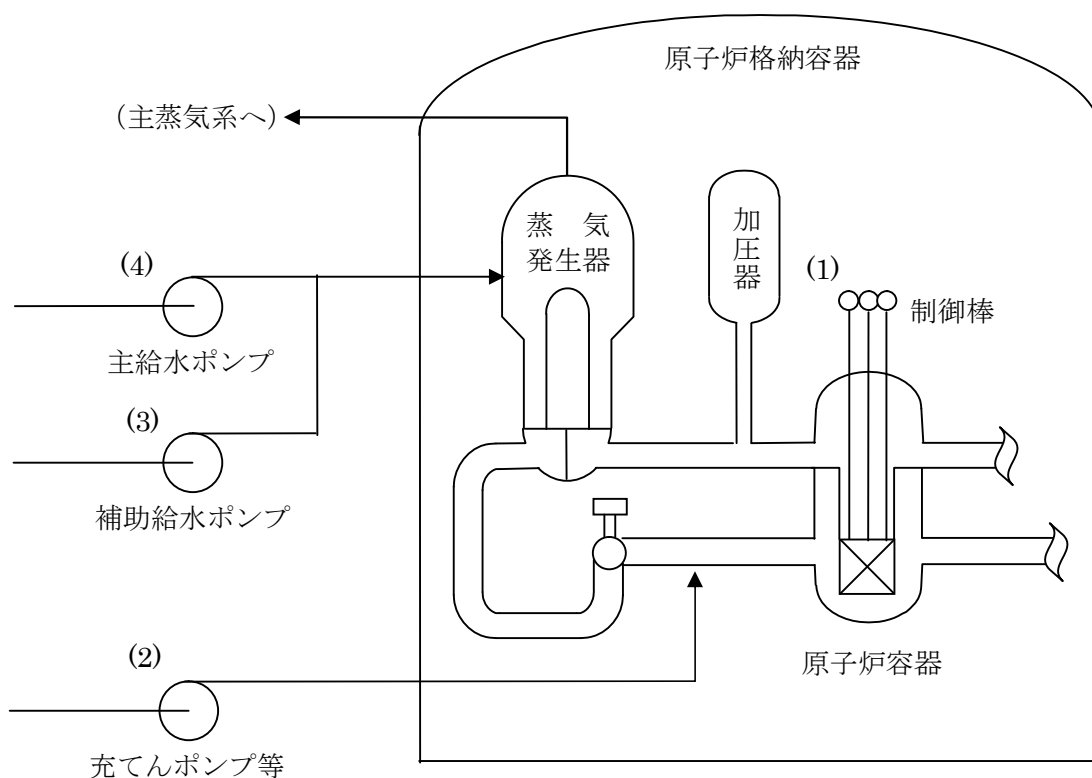
1. 原子炉の停止機能に係る対策

原子炉の停止が必要となる異常時には、様々な監視パラメータにより制御棒を挿入するよう信号が発信し、制御棒が自動的に原子炉へ挿入されることにより、原子炉は安全に停止する。

万一、原子炉が自動で停止しない場合には、

- (1) 原子炉を手動で停止する。【①】
- (2) 高濃度のほう酸水を炉心に緊急注入する。【②】
- (3) 蒸気発生器 (SG) への給水確保のため、補助給水ポンプが自動起動しない場合は手動起動する。【③】
- (4) 補助給水ポンプが手動起動できない場合、主給水ポンプを再起動する。【④】

ことにより、原子炉の停止機能喪失時に炉心の健全性を維持する。



2. 炉心冷却機能に係る対策(1)

原子炉冷却材喪失事故 (LOCA) が発生した場合は、非常用炉心冷却設備 (ECCS) が自動起動し、燃料取替用水ピット (RWSP) のほう酸水を炉心へ注入・冷却する。

万一、ECCS が自動起動しない場合には、

(1) ECCS を手動起動する。【①】

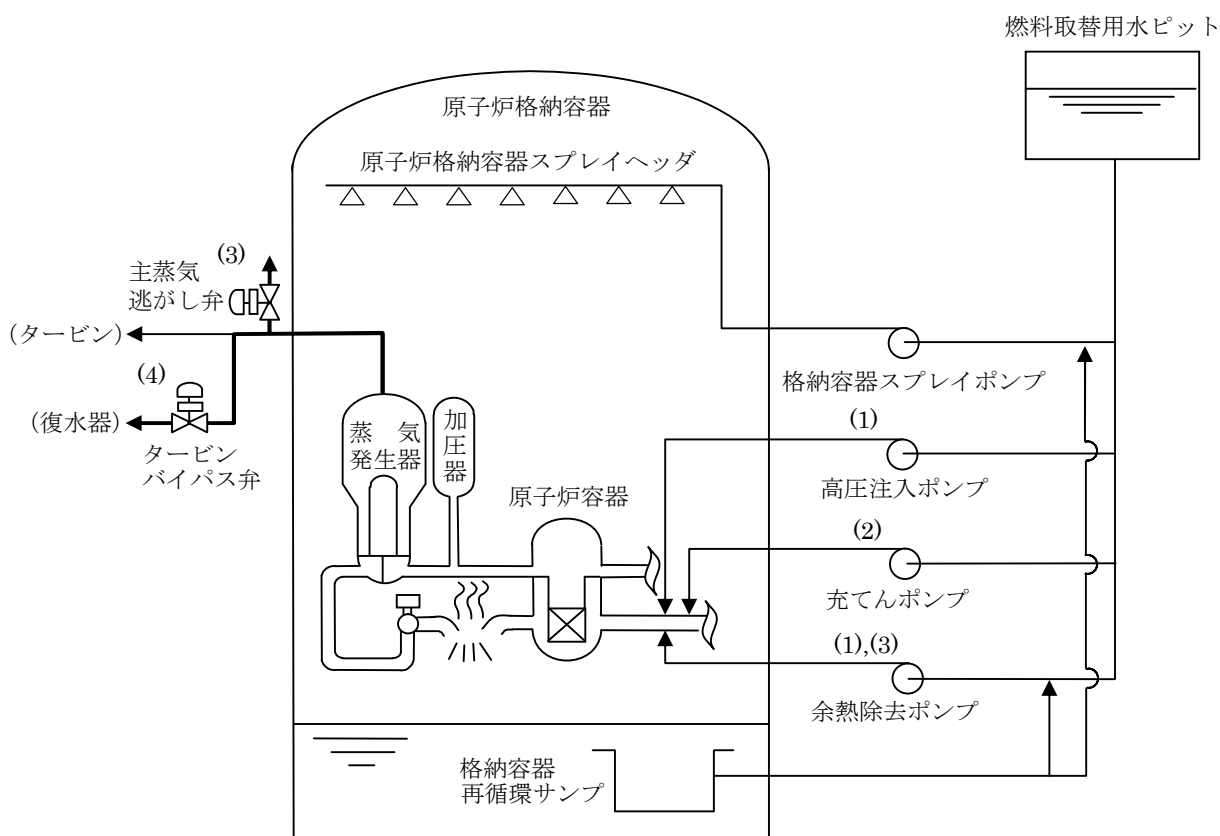
(2) 充てんポンプを手動起動する。【①】

ことにより、炉心冷却機能を確保する。さらに、1次系が高压状態で高压注入ポンプまたは格納容器スプレイポンプが使用できない場合には、

(3) 主蒸気逃がし弁を使用し、2次系からの除熱で1次系を冷却・減圧し、余熱除去ポンプにより炉心または再循環水を冷却する。【②、③及び④】

(4) 主蒸気逃がし弁が使用できない場合は、タービンバイパス弁を使用する。【①】

ことにより、炉心冷却機能喪失時に炉心の健全性を維持する。



2. 炉心冷却機能に係る対策(2)

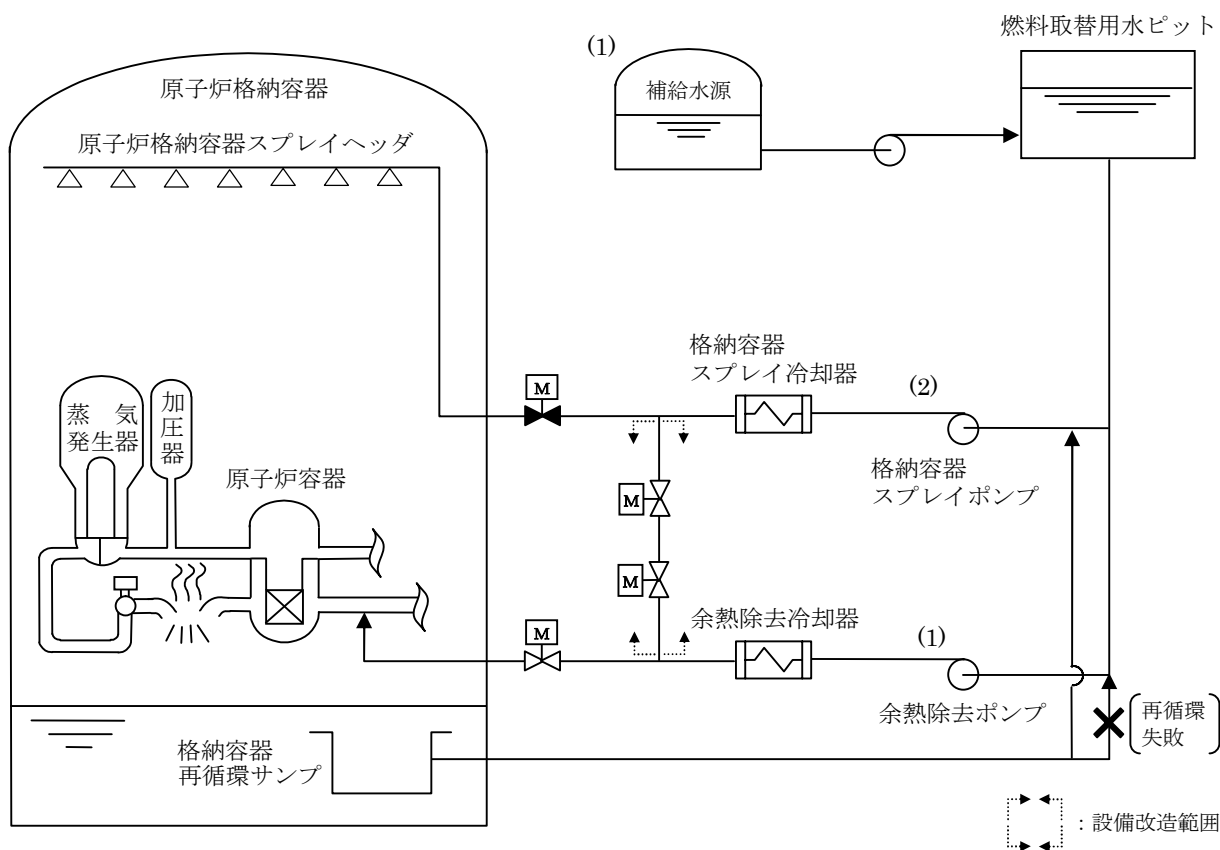
LOCA が発生した場合は、ECCS が自動起動し、RWSP のほう酸水を炉心へ注入・冷却する。ECCS の水源は、RWSP 水の注入を終了した時点で再循環サンプ側へ切り替えられ、長期的に炉心の冷却を確保する。

万一、ECCS の水源の切替えができない場合には、

(1) RWSP にほう酸水を補給しながら、原子炉へ注入を継続する。【⑤】

(2) ECCS の 1 つである余熱除去系と格納容器スプレイ系を接続し、格納容器スプレイ系を用いて再循環する。【⑫】

ことにより、長期的な炉心の冷却を確保して炉心冷却機能喪失時に炉心の健全性を維持する。



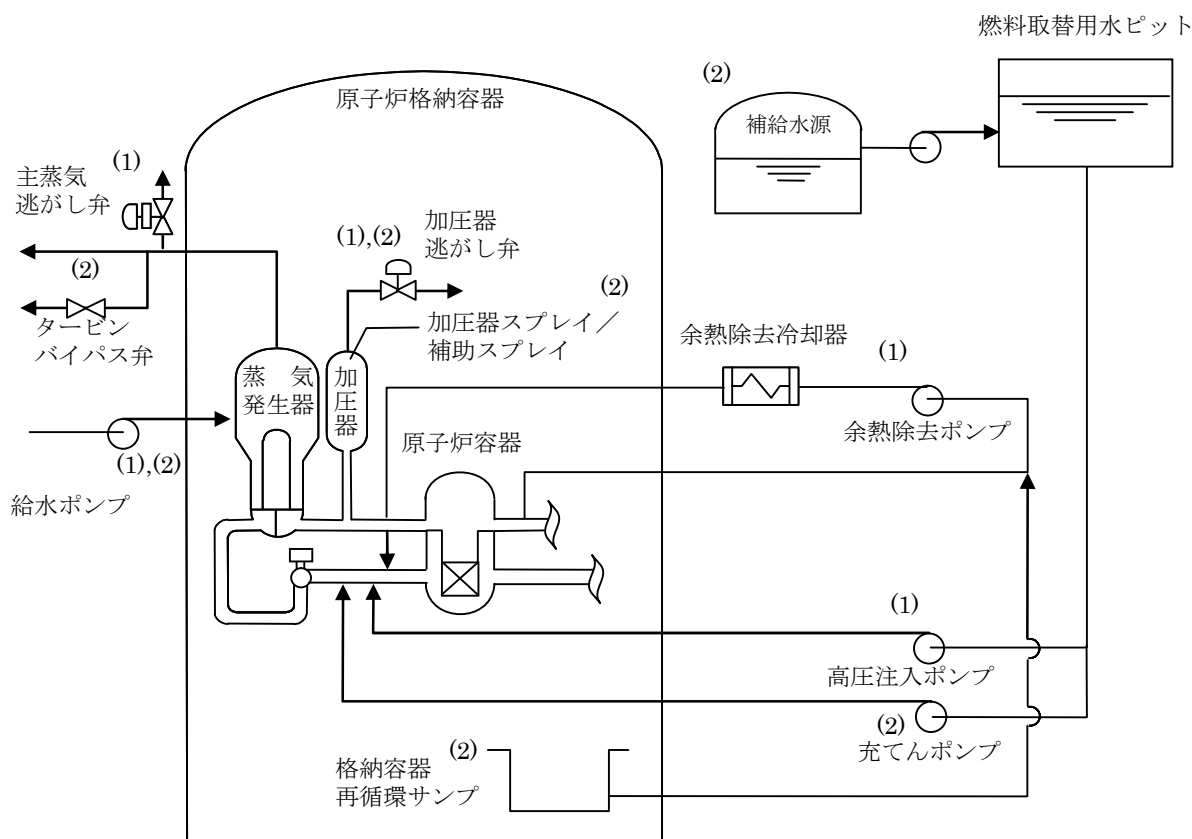
2. 炉心冷却機能に係る対策(3)

蒸気発生器伝熱管破損等が発生した場合は、1次系と2次系を均圧にして漏えい箇所を隔離し、1次系の保有水を維持する。

万一、漏えい箇所の隔離ができない場合には、

- (1) ECCSにより原子炉へほう酸水を注水し、主蒸気逃がし弁により原子炉を冷却すると共に加圧器逃がし弁等により1次系を減圧して漏えいを抑制し、余熱除去系を接続して炉心を冷却する。【⑦】
- (2) 常用系が使用可能な場合は、充てんポンプにより原子炉へ注水を確保しつつ、タービンバイパス系により原子炉を冷却し、加圧器スプレー等により原子炉を減圧して漏えいを抑制する。また、余熱除去系による冷却に失敗した場合は、RWSPへほう酸水の補給を行いつつ、フィードアンドブリード操作により炉心を冷却した後、ECCS再循環を実施する。【⑮】

ことにより、長期的な炉心の冷却を確保して炉心冷却機能喪失時に炉心の健全性を維持する。



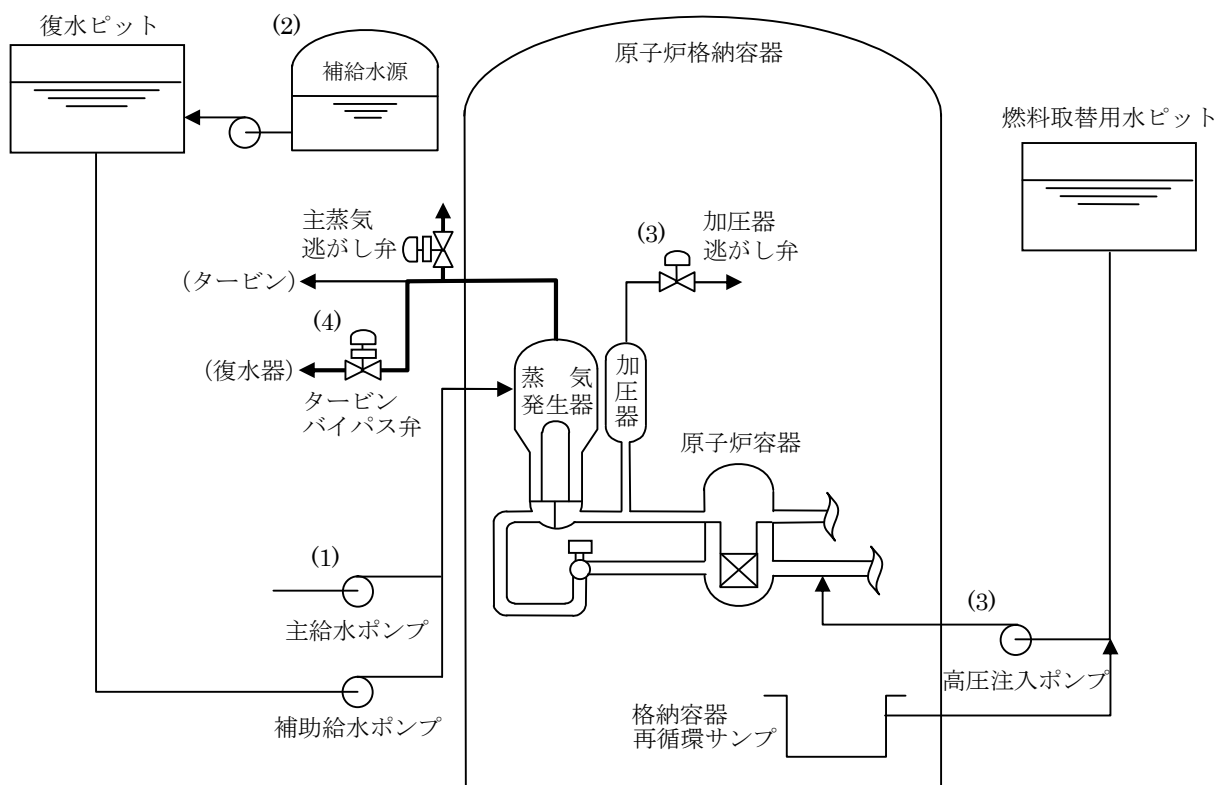
2. 炉心冷却機能に係る対策(4)

過渡事象等が発生した場合は、SGに補助給水ポンプ等で給水し、主蒸気逃がし弁や主蒸気安全弁から蒸気を放出することにより炉心を冷却する。

万一、2次系からの除熱ができない場合には、

- (1) 補助給水系が使用できない場合は、主給水系を手動起動する。【⑧】
- (2) 補助給水系の水源が不足する場合は、他の水源から水を補給する。【⑨】
- (3) SGで冷却できない場合は、高圧注入ポンプで原子炉へほう酸水を注水し、加圧器逃がし弁を開放する。【⑩】
- (4) 蒸気放出経路が十分に確保できない場合、タービンバイパス弁を開放する。【⑪】

ことにより、炉心冷却機能喪失時に炉心の健全性を維持する。



2. 炉心冷却機能に係る対策(5)

過渡事象等が発生した場合は、SGに補助給水ポンプ等で給水し、主蒸気逃がし弁や主蒸気安全弁から蒸気を放出することにより炉心を冷却する。

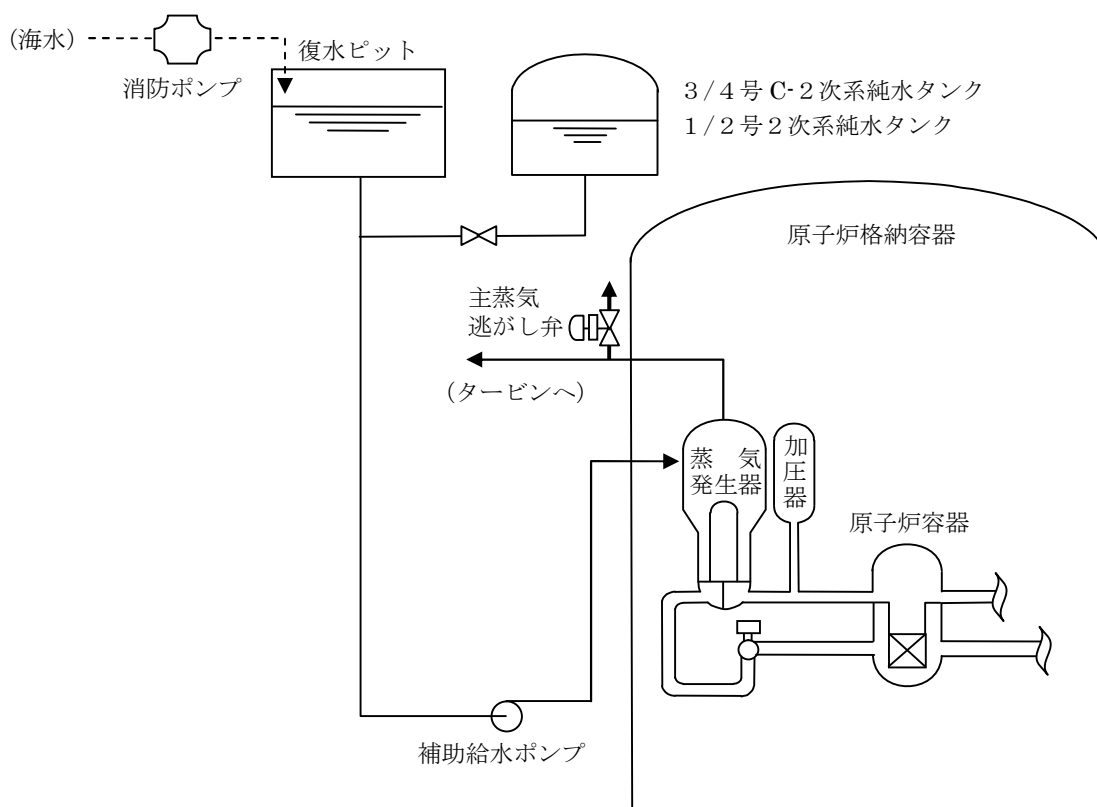
万一、全交流電源喪失が発生した場合には、

(1) タービン動補助給水ポンプによる冷却を継続する。【II】

ことにより継続的かつ安定的に冷却し、炉心の健全性を維持する。

(1)

- 方法1：復水ピットの水を使用する。
 方法2：3/4号C-2次系純水タンクの水を復水ピットへ補給する。
 方法3：1/2号2次系純水タンクの水を復水ピットへ補給する。
 方法4：消防ポンプで海水を汲み上げ、海水を復水ピットへ補給する。



※点線は消火ホースを表す。

3. 放射性物質の閉じ込め機能に係る対策(1)

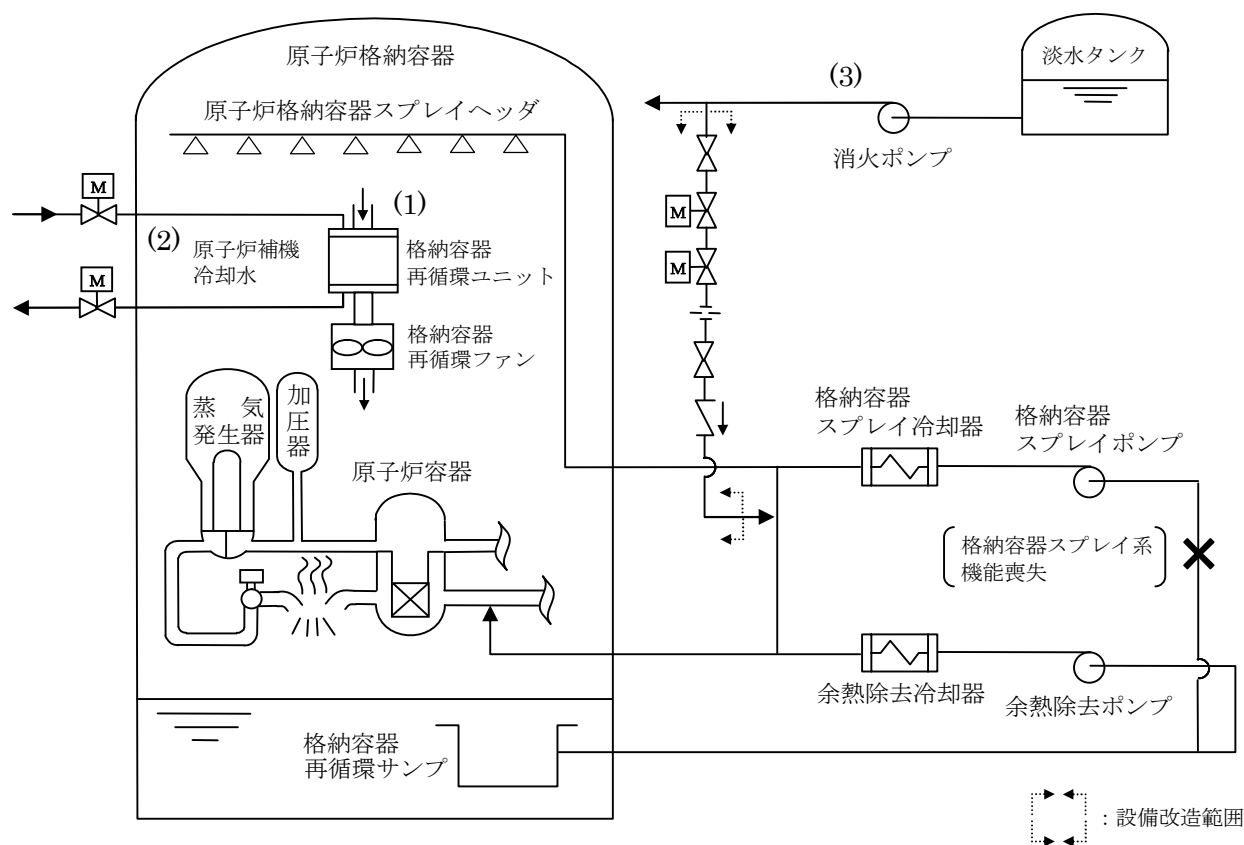
LOCA が発生した場合は、格納容器が水蒸気により加圧されるため、格納容器スプレイ系により水蒸気を凝縮して格納容器を冷却し、圧力上昇を抑制する。

万一、炉心損傷が発生し、さらに格納容器スプレイ系が使用できない場合には、

- (1) 常用格納容器冷却系のファン（格納容器再循環ファン）を手動起動する。【①】
- (2) ファンが起動できない場合は、常用格納容器冷却系の空調冷却器（格納容器再循環ユニット）に通水し、格納容器内に自然対流を発生させる。【③】
- (3) 格納容器自然対流冷却も使用できない場合は、消火水系と格納容器スプレイ系を接続し、消火ポンプを用いて淡水タンクの水を格納容器内に注水する。【④】

ことにより、格納容器内の圧力上昇を抑制し、放射性物質の閉じ込め機能を確保する。

なお、(1)及び(2)は炉心冷却機能に係る対策（【⑥及び⑬】）としても有効である。



3. 放射性物質の閉じ込め機能に係る対策(2)

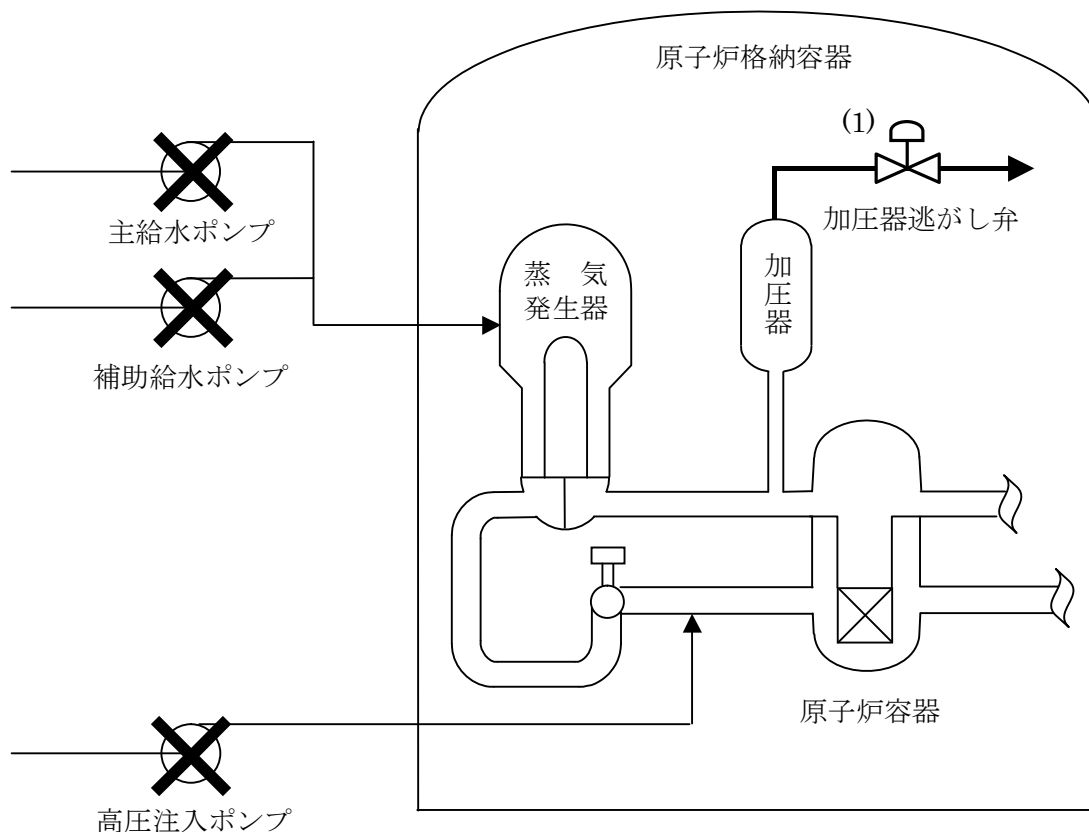
過渡事象等が発生した場合は、2次系からの除熱手段により炉心を冷却する。

万一、炉心損傷が発生し、さらに高圧注入系の機能喪失及び SG による冷却失敗により 1 次系が高圧状態のまま炉心を冷却できなくなった場合には、

(1) 加圧器逃がし弁を手動で開放し、原子炉を減圧する。【⑤】

ことにより格納容器雰囲気直接加熱*の発生を防止し、放射性物質の閉じ込め機能を確保する。

*高圧で原子炉容器外へ放出された熔融炉心が微粒子化して表面積を増し、格納容器雰囲気（気相部）を急激に加温・加圧する現象。



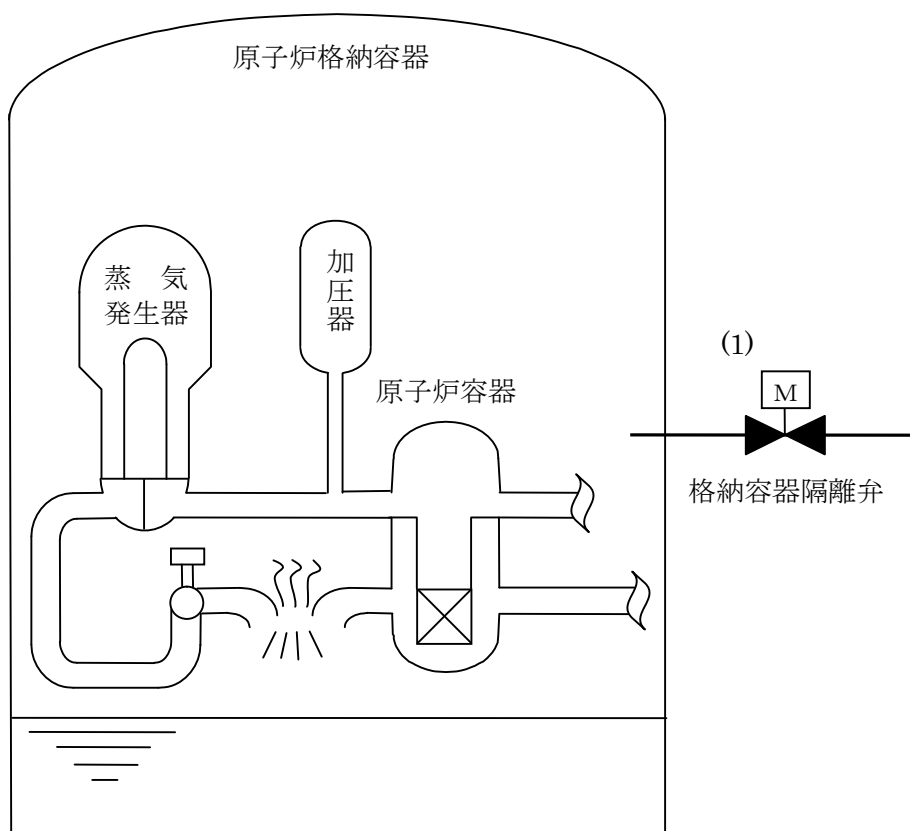
3. 放射性物質の閉じ込め機能に係る対策(3)

LOCA が発生した場合は、格納容器貫通部に設けられた隔離弁等により格納容器を隔離する。

万一、炉心損傷が発生し、さらに隔離弁が自動的に閉止しない場合には、

(1) 隔離弁を手動で閉止する。【②】

ことにより、放射性物質の閉じ込め機能を確保する。



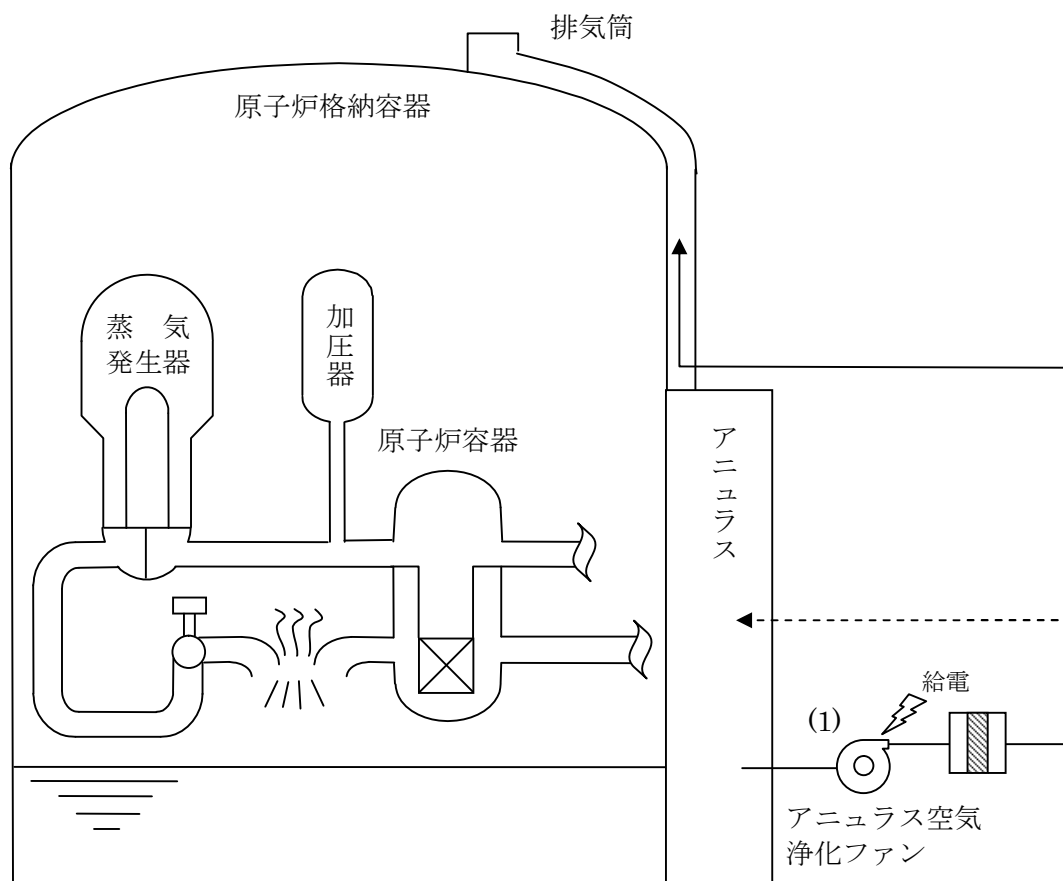
3. 放射性物質の閉じ込め機能に係る対策(4)

LOCA が発生した場合は、環境への放射性物質の放出を抑制するため、アニュラス空気浄化系によりアニュラス部を負圧に保ちながら空気を再循環させ、アニュラス空気浄化フィルタにより放射性よう素を除去する。

万一、全交流電源喪失に伴って炉心損傷が発生し、さらに格納容器内で発生した水素がアニュラスに漏えいした場合には、

- (1) アニュラス空気浄化ファンに空冷式非常用発電装置で給電し、アニュラス部の空気をアニュラス空気浄化フィルタを通して排気筒から放出する。【iv】

ことにより水素爆発の発生を防止し、放射性物質の閉じ込め機能を確保する。



4. 安全機能のサポート機能に係る対策(1)

外部電源が喪失した場合は、非常用所内電源系、直流電源系等から安全系機器へ電源を供給する。

万一、全交流電源の喪失により非常用所内電源系の機能が喪失した場合には、

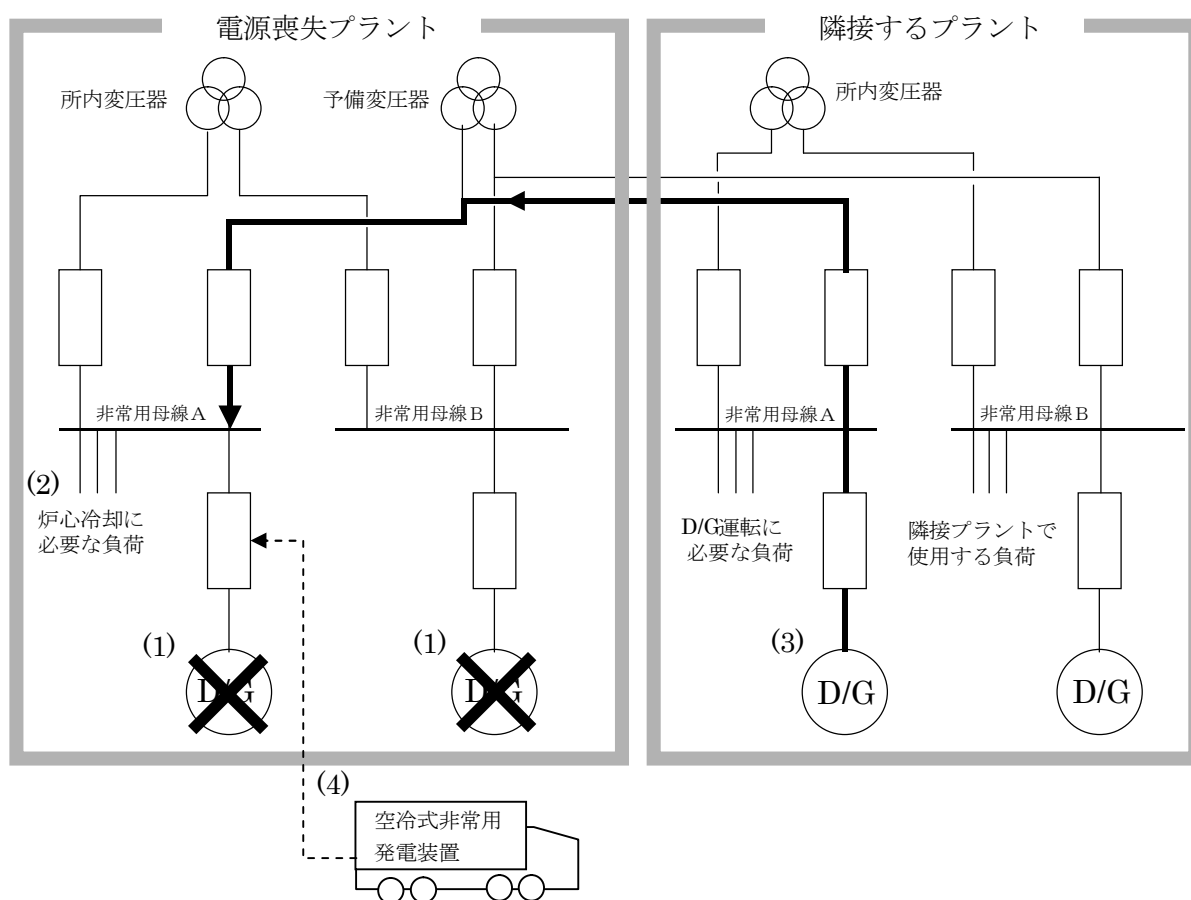
- (1) 非常用ディーゼル発電機 (D/G) を手動で起動する等、電源系統の回復を図る。【①】
- (2) 直流電源から不要な負荷を切り離し、蓄電池を効果的に利用する。【②】
- (3) 隣接プラントの非常用 D/G から、動力用の交流電源を融通する。【⑥】

ことにより、非常用所内電源系の機能喪失時に安全機能のサポート機能を維持する。

なお、隣接プラントを含めて全交流電源喪失が発生した場合には、

- (4) D/G 制御盤またはメタクラ遮断器へ空冷式非常用発電装置をつなぎ込んで給電する。
【①】

ことにより、緊急時の電源を確保する。



4. 安全機能のサポート機能に係る対策(2)

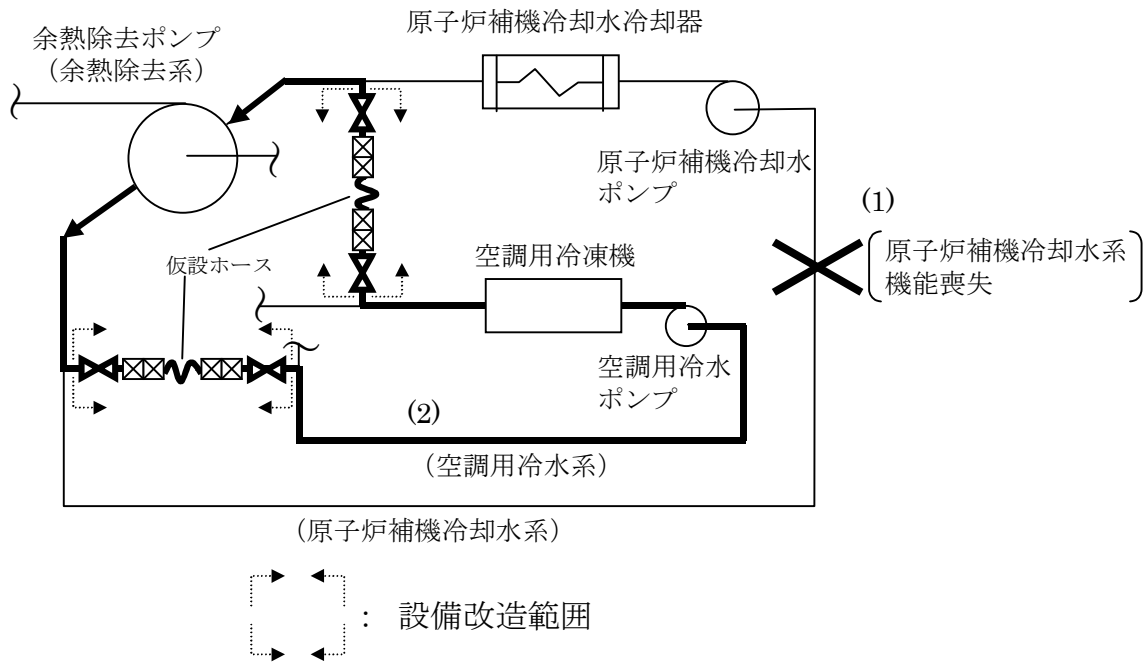
安全機能を有するポンプ等には、原子炉補機冷却水系から軸受等を冷却する冷却水が供給されている。

万一、原子炉補機冷却水系から冷却水が供給できない場合には、

- (1) 原子炉補機冷却水系の回復を図ると共に、必要な機器への冷却水を確保する。【③】
- (2) 空調用冷水系を余熱除去ポンプの原子炉補機冷却水系に接続し、余熱除去ポンプの冷却を確保する。【⑤】

ことにより、原子炉補機冷却水系の機能喪失時に安全機能のサポート機能を維持する。

なお、(2)は炉心冷却機能に係る対策【⑭】としても有効である。



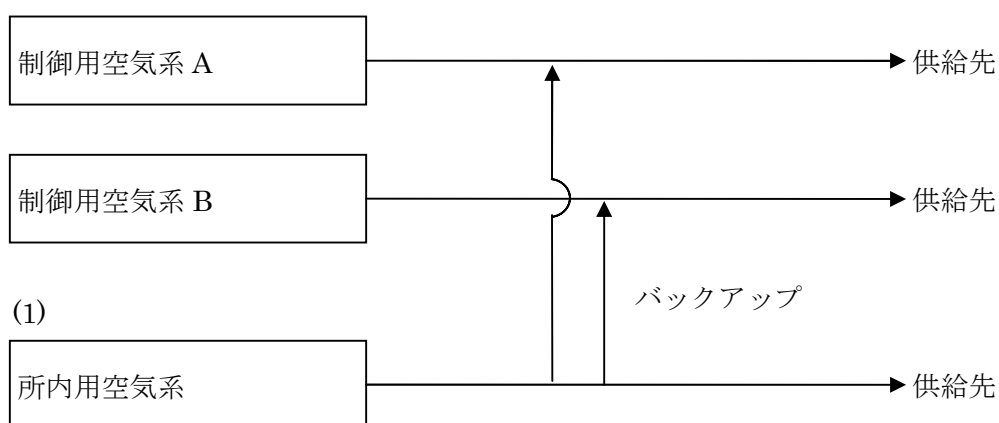
4. 安全機能のサポート機能に係る対策(3)

安全機能を有する計測系や空気作動弁等には、制御用空気系から駆動用の空気が供給されている。

万一、制御用空気系から空気が供給できない場合には、

(1) 所内用空気系から空気を供給する。【④】

ことにより、制御用空気系の機能喪失時に安全機能のサポート機能を維持する。



5. その他

使用済燃料ピット（SFP）では、通常 SFP 浄化冷却系により保管している使用済燃料から発生する崩壊熱を除去する。

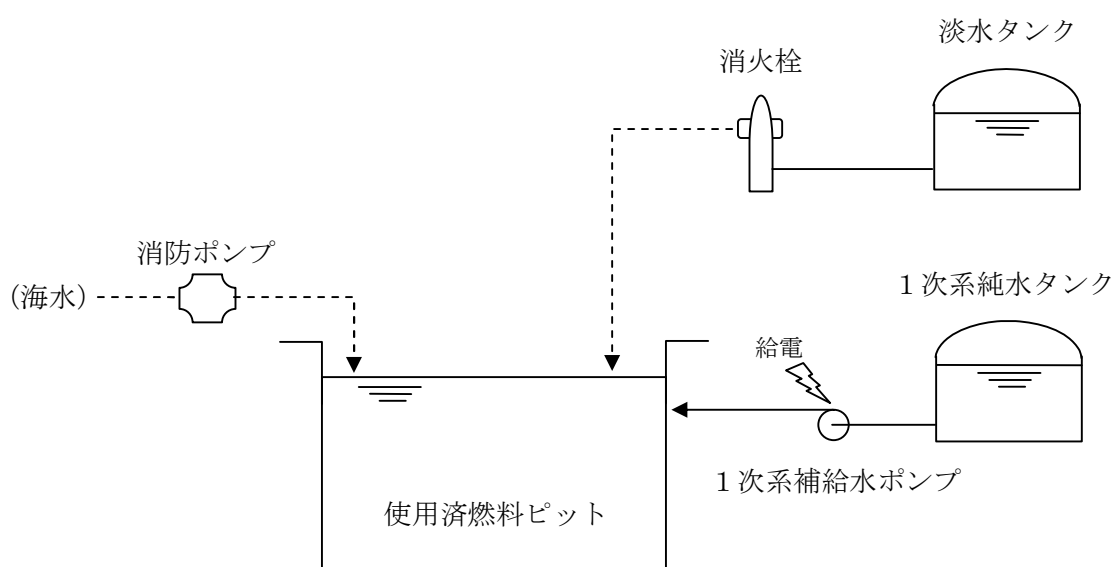
万一、全交流電源喪失に伴って SFP の冷却機能が喪失し、通常の系統を用いて使用済燃料を冷却できなくなった場合には、

(1) SFP 水量の減少を補うため、SFP へ水の補給を行う。【Ⅲ】

ことにより SFP 水量を確保し、放射性物質の閉じ込め機能を確保する。

(1)

方法 1：屋内の消火栓から、No.1 淡水タンクの水を水頭圧にて補給する。
 方法 2：屋外の消火栓から、No.1 淡水タンクの水を水頭圧にて補給する。
 方法 3：1 次系補給水ポンプに空冷式非常用発電装置で給電し、1 次系純水タンクの水を補給する。
 方法 4：消防ポンプで海水を汲み上げ、海水を補給する。



※点線は消火ホースを表す。

防護措置の整備状況
(燃料の重大な損傷を防止するための措置 (1/2))

| 機能 | 目的 | 防護措置 | 対策概要 | 主要な必要系統等 | 設置時期等 | |
|-------------------|------------------------------------|------------------------|--------------------------|---|---|--------|
| 原子炉の停止機能 | 原子炉停止機能喪失の影響緩和 | ①手動原子炉トリップ | 既存設備の利用、手順書の整備 | 直流電源系 (遠隔操作の場合) | イ | |
| | | ②緊急ほう酸注入 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 化学体積制御系、安全注入系 | イ | |
| | | ③緊急2次系冷却 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 補助給水系 | イ | |
| | | ④緊急2次系冷却の多様化 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 主給水系、復水系、2次系純水系 | イ | |
| | 炉心冷却機能 | ECCS 注入機能喪失の影響緩和 | ①代替注入 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 化学体積制御系、安全注入系 | イ |
| | | | ②2次系強制冷却による低圧注入 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 補助給水系、主蒸気系、安全注入系、余熱除去系 | イ |
| | | ECCS 再循環機能喪失の影響緩和 | ①タービンバイパス系の活用 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 主蒸気系、循環水系、復水系 | イ |
| | | | ③2次系強制冷却による低圧再循環 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 補助給水系、主蒸気系、余熱除去系、原子炉補機冷却水系、海水系 | イ |
| | | | ⑤水源補給による注入継続 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 化学体積制御系、廃液処理系、1次系純水系、SFP 冷却系、2次系純水系、原水系 | イ |
| | | | ⑪タービンバイパス系の活用 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 主蒸気系、循環水系、復水系 | イ |
| | 格納容器の除熱機能喪失の影響緩和 | 格納容器の除熱機能喪失の影響緩和 | ⑫代替再循環 | 格納容器スプレイ系 - 余熱除去系接続ラインの設置、手順書の整備 | 格納容器スプレイ系、余熱除去系、原子炉補機冷却水系、海水系 | イ |
| | | | ⑭代替補機冷却 | 空調用冷水系から余熱除去ポンプの原子炉補機冷却水系への供給・戻り連絡配管の設置、手順書の整備 | 空調用冷水系、海水系 仮設ホース | イ ロ |
| | | | ④2次系強制冷却によるサンプ水冷却 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 補助給水系、主蒸気系 | イ |
| | | | ⑥代替格納容器気相冷却 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 格納容器空気再循環系、海水系 原子炉補機冷却水系 | イ |
| ⑪タービンバイパス系の活用 | | | 既存設備の利用、手順書の整備 | 主蒸気系、循環水系、復水系 | イ | |
| ⑬格納容器内自然対流冷却 | | | 既存設備の利用、手順書の整備、監視計器の追加設置 | 格納容器空気再循環系、海水系 原子炉補機冷却水系 | イ ロ | |
| 漏えい箇所隔離機能喪失の影響緩和 | | ⑦1次系注水・減圧 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 安全注入系、原子炉冷却系、補助給水系、主蒸気系、余熱除去系、原子炉補機冷却水系、海水系 | イ | |
| | | ⑮クールドアウン&リサーキュレーション | 既存設備の利用、手順書の整備 | 化学体積制御系、原子炉冷却系、主蒸気系、主給水系、復水系、循環水系、余熱除去系、原子炉補機冷却水系、海水系 | イ | |
| | | ⑧代替給水 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 主給水系、復水系、2次系純水系 | イ | |
| | | ⑨2次系水源補給 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 2次系純水系 | イ | |
| 2次系からの除熱機能喪失の影響緩和 | ⑩フイードアンドブリード | 既存設備の利用、手順書の整備 | 安全注入系、原子炉冷却系 | イ | | |
| | ⑪タービンバイパス系の活用 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 主蒸気系、循環水系、復水系 | イ | | |
| | II)緊急時の最終的な除熱機能の確保 (復水ピットへの給水の多様化) | 消防ポンプ及び消火ホースの配置、手順書の整備 | 補助給水系 消防ポンプ及び消火ホース | イ ハ | | |
| | | | | | H23.4 | |

防護措置の整備状況
(燃料の重大な損傷を防止するための措置 (2/2))

| 機能 | 目的 | 防護措置 | 対策概要 | 主要な必要系統等 | 設置時期等 |
|-------------|------------------------------|---|--|-------------------------------------|-----------------|
| 安全機能のサポータ機能 | 電源喪失の影響緩和 | ①電源復旧 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 所内電源系、送電系 | イ |
| | | ②直流電源確保 | 既存設備の利用、手順書の整備 | — | — |
| | | ⑥号機間電源融通 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 所内電源系 | イ |
| | 補機冷却水喪失の影響緩和 | I)緊急時の電源確保 (空冷式非常用発電装置による給電) | 空冷式非常用発電装置及び電源ケーブルの配置、手順書の整備 | 所内電源系 空冷式非常用発電装置及び電源ケーブル | H23.10 |
| | | ③補機冷却水系回復 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 原子炉補機冷却水系、海水系、2次系純水系、1次系純水系、燃料取替用水系 | イ |
| | | ⑤代替補機冷却 | 空調用冷水系から余熱除去ポンプの原子炉補機冷却水系への供給・戻り連絡配管の設置、手順書の整備 | 空調用冷水系、海水系 仮設ホース | イ ロ 第5回定検 |
| その他 | 制御用空気喪失の影響緩和 | ④代替制御用空気供給 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 所内用空気系、制御用空気系 | イ |
| | | III)緊急時の使用済燃料貯蔵槽の冷却確保 (使用済燃料ピットへの給水の多様化) | 消防ポンプ及び消火ホースの配置、手順書の整備 | 原水系 消防ポンプ及び消火ホース | イ ハ H23.4 |
| | SFPの冷却機能喪失の影響緩和 事故対応環境の強化 | ii)緊急時における発電所構内通信手段の確保 | 通信機器（トランシーバ、衛星携帯電話、携行型通話装置）の配備 | 通信機器（トランシーバ、衛星携帯電話、携行型通話装置） | ハ H23.6 |
| | | v)がれき撤去用の重機の配備 | トラクタ（ホイールローダー）の配備 | トラクタ（ホイールローダー） | ハ H23.6 |
| | | | | | |

※網掛けは、緊急安全対策またはシビアアクシデントへの対応に関する措置として、東日本大震災後新たに整備したものの。

※「設置時期等」におけるイ～ニの分類については以下のとおり。

- イ) 緊急安全対策以前に、手順の追加のみで整備したもの
- ロ) 緊急安全対策以前に、AM 策として設置した設備を用いたもの
- ハ) 緊急安全対策（短期）
- ニ) 設備強化対策（緊急安全対策に係る実施状況報告書にて計画されているものうち設置済みの設備）

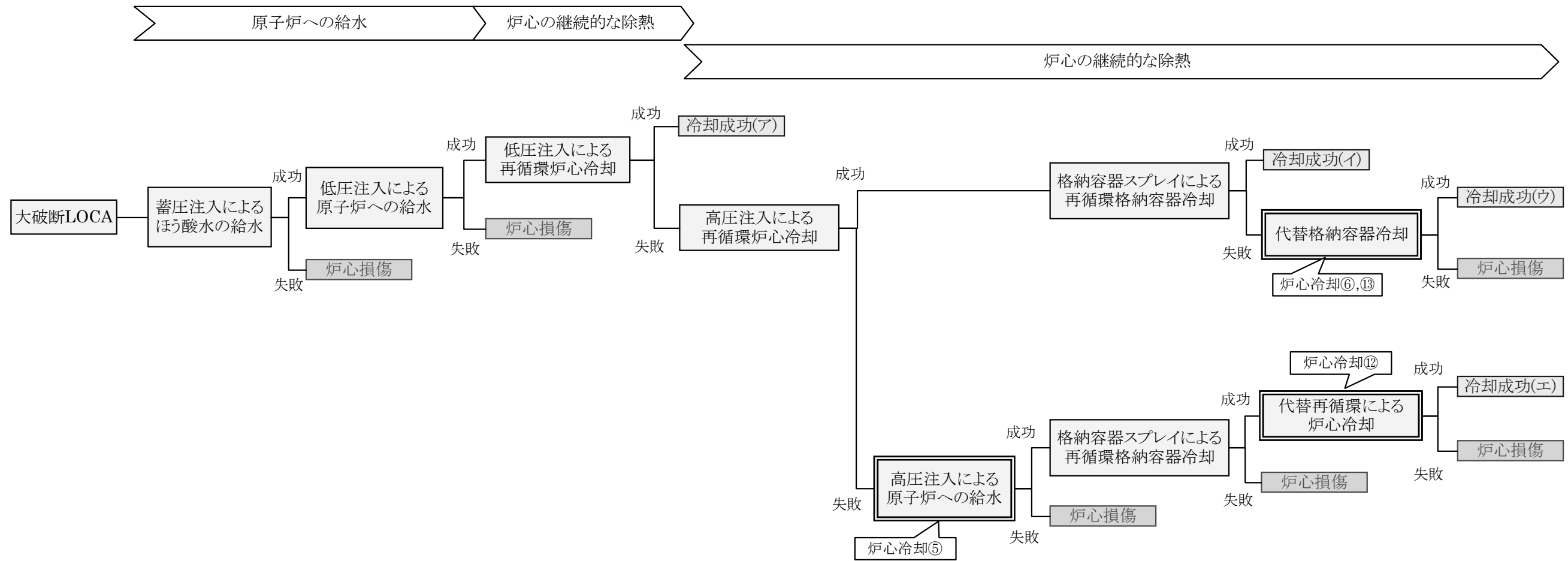
防護措置の整備状況
(放射性物質の大規模な放出を防止するために原子炉格納容器の健全性を維持するための措置)

| 機能 | 目的 | 防護措置 | 対策概要 | 主要な必要系統等 | 設置時期等 | |
|--------------|------------------|--------------------------------------|---|---|-----------------------------|--------|
| 放射性物質の閉じ込め機能 | 格納容器の除熱機能喪失の影響緩和 | ①代替格納容器気相冷却 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 格納容器空気再循環系、海水系 原子炉補機冷却水系 | イ | |
| | | ③格納容器内自然対流冷却 | 既存設備の利用、手順書の整備、監視計器の追加設置 | 格納容器空気再循環系、海水系 原子炉補機冷却水系 | イ ロ | |
| | | ④格納容器内注水 | 消火水系－格納容器スプレイス接続ライン、積算流量計の設置及び原子炉キャビティへの浸水性向上のための炉内計装用シンブル配管室への浸水経路の確保、手順書の整備 | 消火水系、格納容器スプレイス 消火水系－格納容器スプレイス接続ライン | イ ロ | |
| | | ⑤ 1次系強制減圧 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 原子炉冷却系 | イ | |
| | | ②格納容器手動隔離 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 格納容器隔離弁を有する系統 | イ | |
| | 安全機能のサポート機能 | 水素発生の影響緩和 | iv)水素爆発防止対策(アニュウラスの排気) | 既存設備の利用、手順書の整備 | アニュウラス排気系 | イ |
| | | | ①電源復旧 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 所内電源系、送電系 | イ |
| | | | ②直流電源確保 | 既存設備の利用、手順書の整備 | － | － |
| | | | ⑥予機間電源融通 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 所内電源系 | イ |
| | | | I)緊急時の電源確保(空冷式非常用発電装置による給電) | 空冷式非常用発電装置及び電源ケーブルの配置、手順書の整備 | 所内電源系 空冷式非常用発電装置及び電源ケーブル | イ 二 |
| その他 | 補機冷却水喪失の影響緩和 | ③補機冷却水系回復 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 原子炉補機冷却水系、海水系、 2次系純水系、1次系純水系、 燃料取替用水系 | イ | |
| | | ⑤代替補機冷却 | 空調用冷水系から余熱除去ポンプの原子炉補機冷却水系への供給・戻り連絡配管の設置、手順書の整備 | 空調用冷水系、海水系 仮設ホース | イ ロ | |
| | | ④代替制御用空気供給 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 所内用空気系、制御用空気系 | イ | |
| | | i)中央制御室の作業環境の確保 | 既存設備の利用、手順書の整備 | 中央制御室換気空調系 | イ | |
| | | ii)緊急時における発電所構内通信手段の確保 | 通信機器(トランシーバ、衛星携帯電話、携行型通話装置)の配備 | 通信機器(トランシーバ、衛星携帯電話、 携行型通話装置) | ハ | |
| その他 | 制御用空気喪失の影響緩和 | iii)高線量対応防護服等の資機材の確保及び放射線管理のための体制の整備 | 高線量対応防護服の配備、放射線管理のための体制の整備 | 高線量対応防護服 | ハ | |
| | | v)がれき撤去用の重機の配備 | トラクターシヨベル(ホイールローダー)の配備 | トラクターシヨベル(ホイールローダー) | ハ | |
| | | iv)緊急時におけるイヘニの分類については以下のとおり。 | | | | |
| | | vii)緊急安全対策以前に、AM策として設置した設備を用いたもの | | | | |
| | | viii)緊急安全対策(短期) | | | | |

※網掛けは、緊急安全対策またはシビアアクシデントへの対応に関する措置として、東日本大震災後新たに整備したものの。

※「設置時期等」におけるイヘニの分類については以下のとおり。

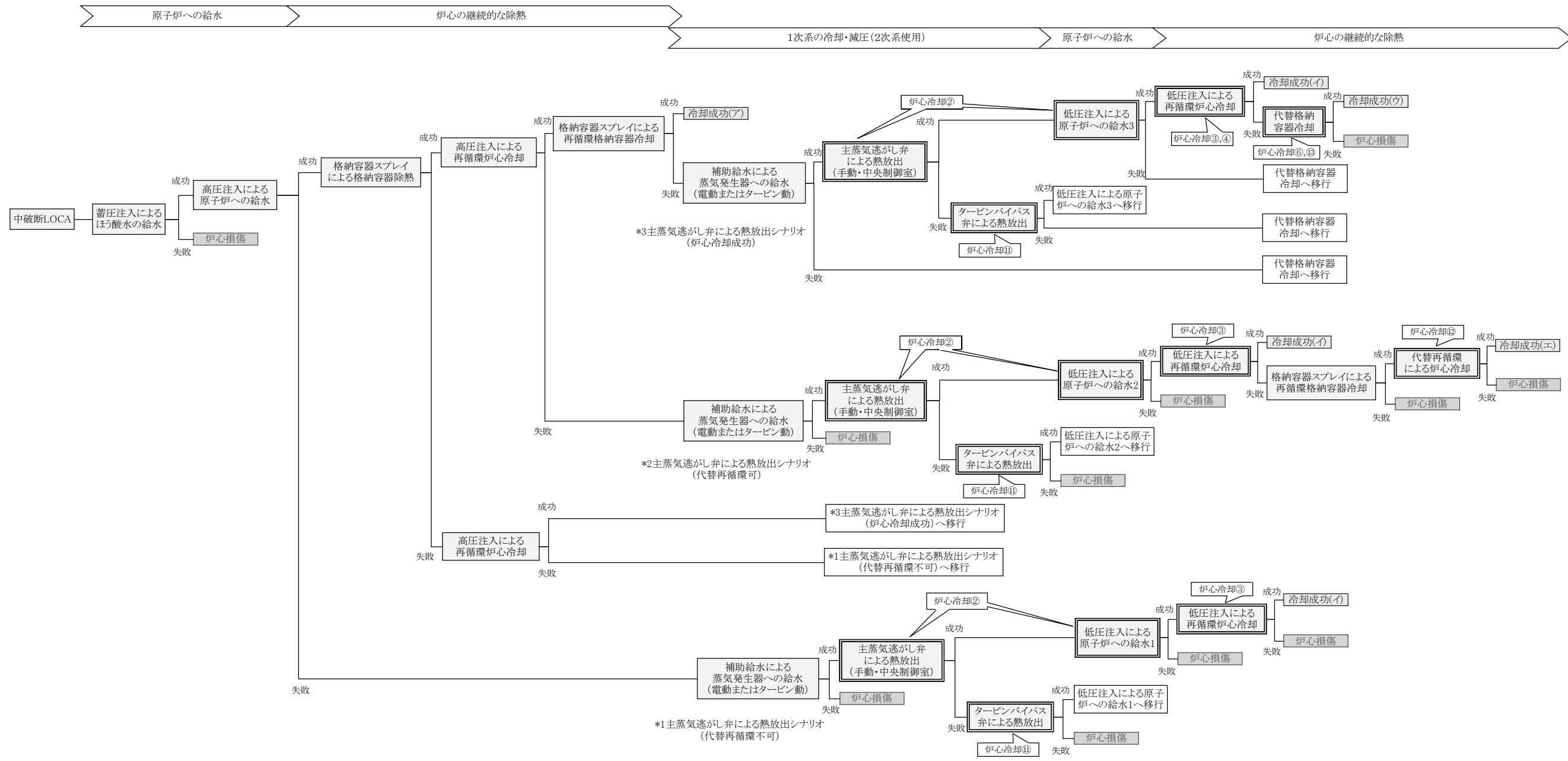
- イ) 緊急安全対策以前に、手順の追加のみで整備したもの
- ロ) 緊急安全対策以前に、AM策として設置した設備を用いたもの
- ハ) 緊急安全対策(短期)
- ニ) 設備強化対策(緊急安全対策に係る実施状況報告書にて計画されているものうち設置済みの設備)



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 1 : 大破断 LOCA)

- ・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
- ・吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
- ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

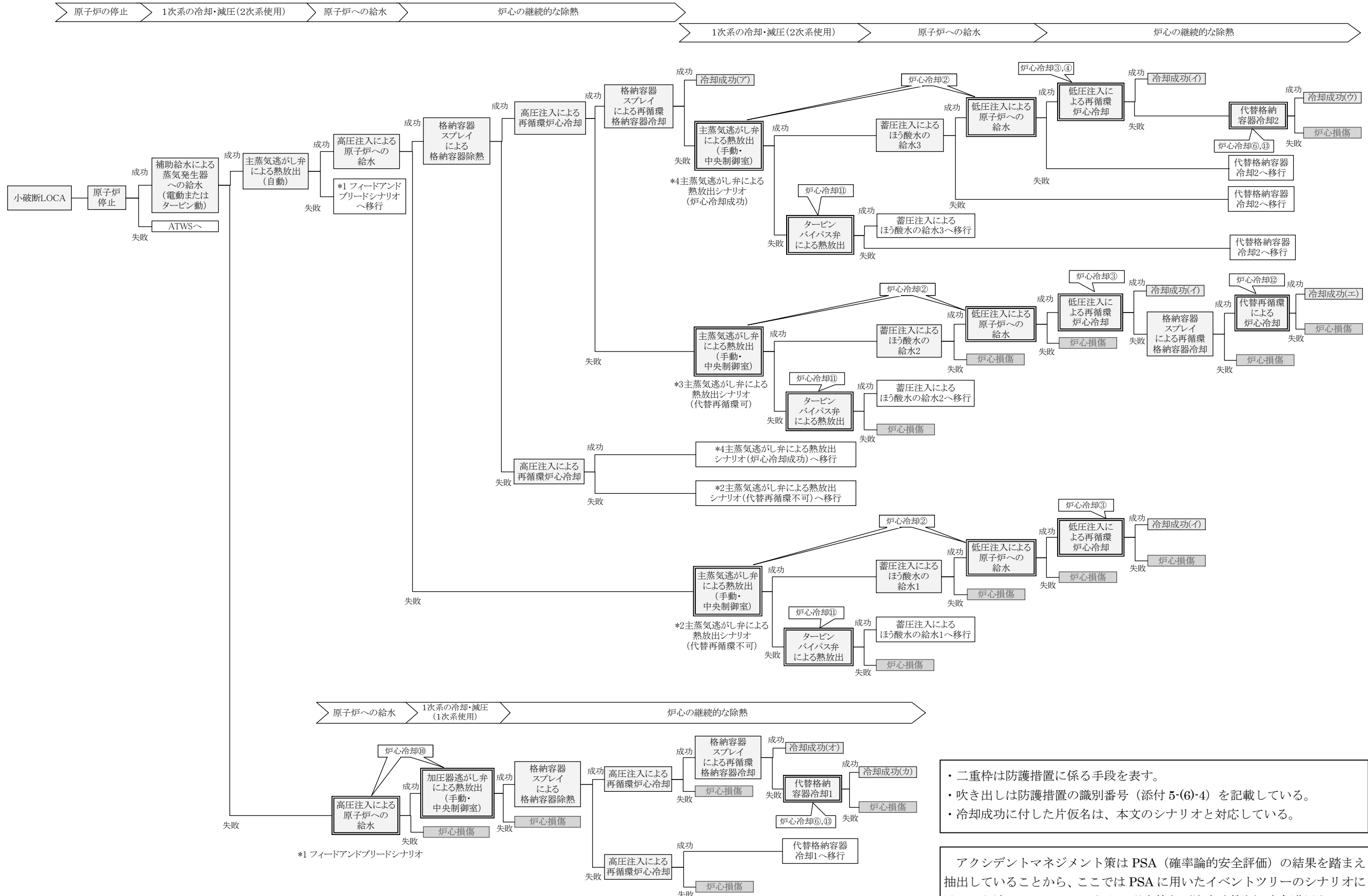
アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



・ 二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・ 吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
 ・ 冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。

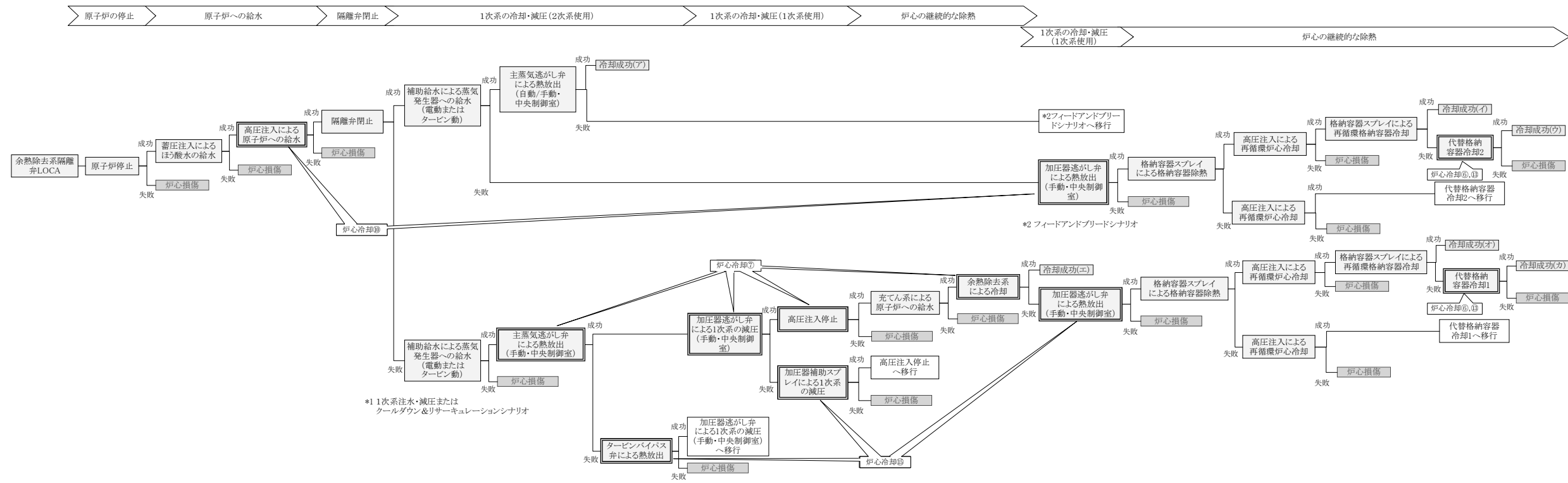
炉心損傷に係るイベントツリー
 （カテゴリ 1：中破断 LOCA）



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 1 : 小破断 LOCA)

・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号(添付 5-(6)-4)を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

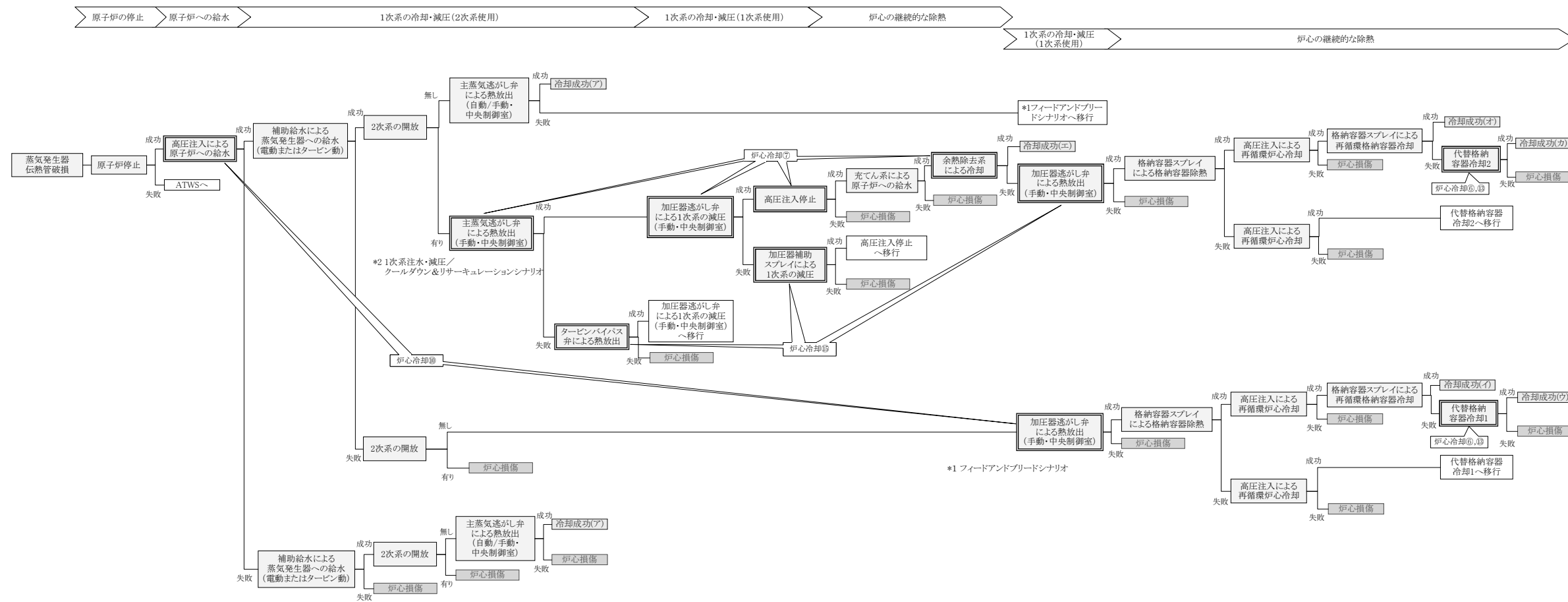
アクシデントマネジメント策は PSA (確率論的安全評価) の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な(決定論的な)事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



- 二重枠は防護措置に係る手段を表す。
- 吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
- 冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。

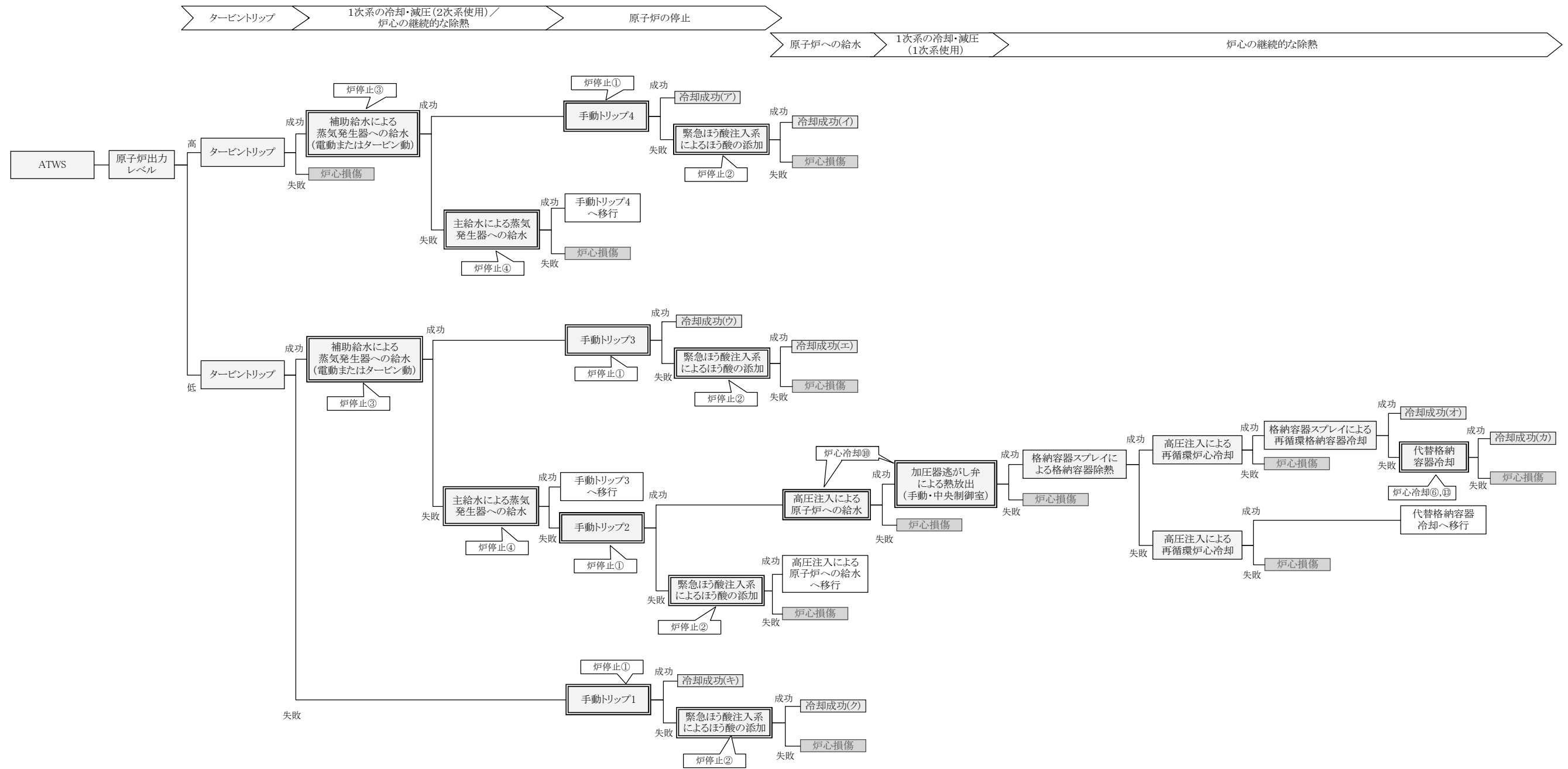
炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 2 : 余熱除去系隔離弁 LOCA)



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 2 : 蒸気発生器伝熱管破損)

- ・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
- ・吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
- ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

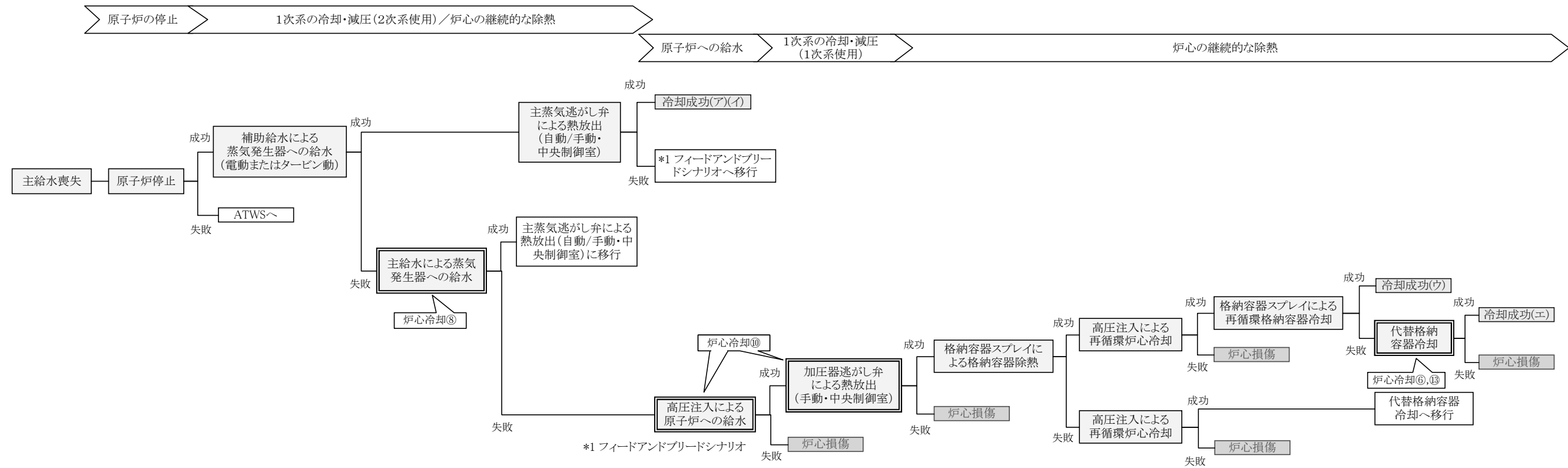
アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 3 : ATWS)

・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

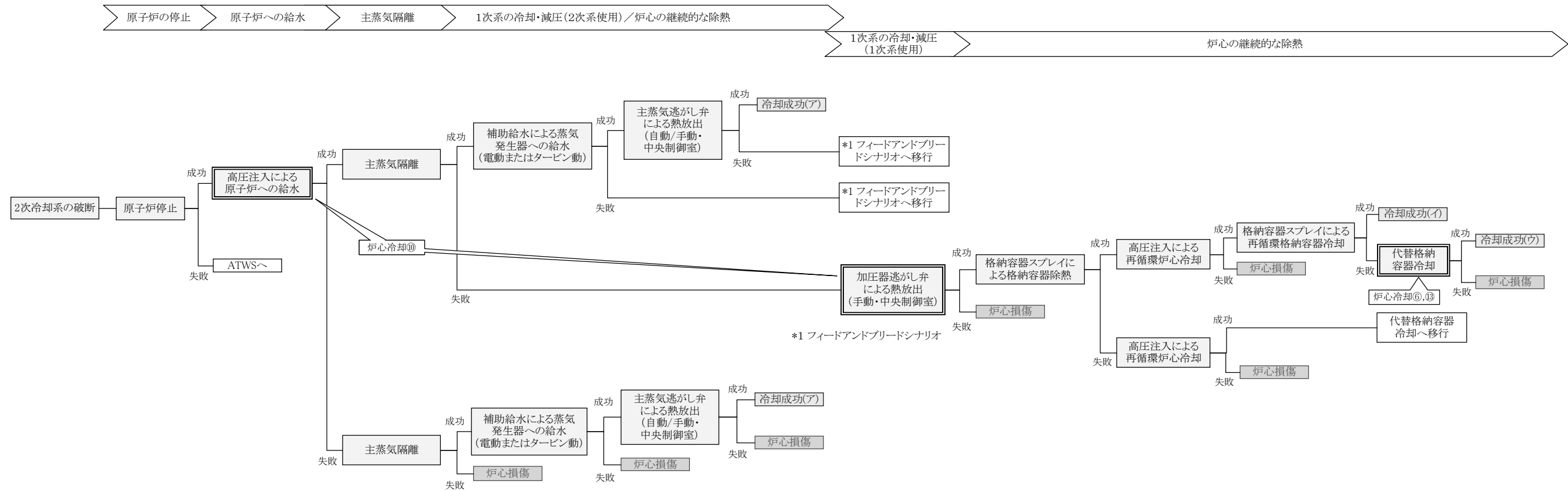
アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 4 : 主給水喪失)

・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

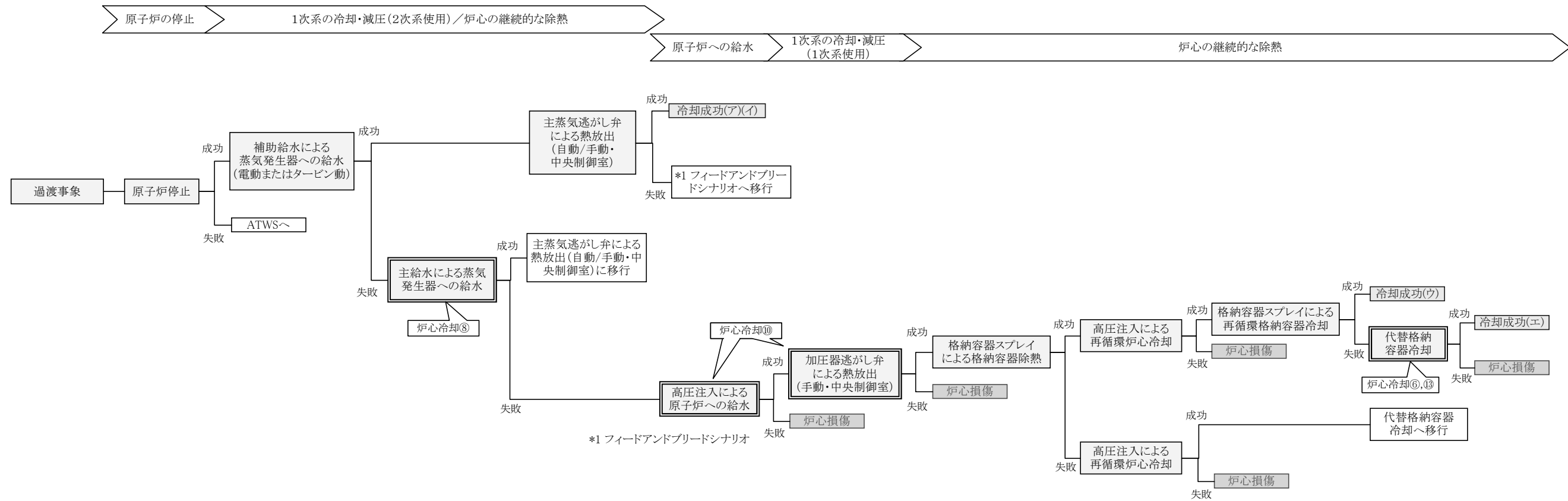
アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 4 : 2次冷却系の破断)

・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

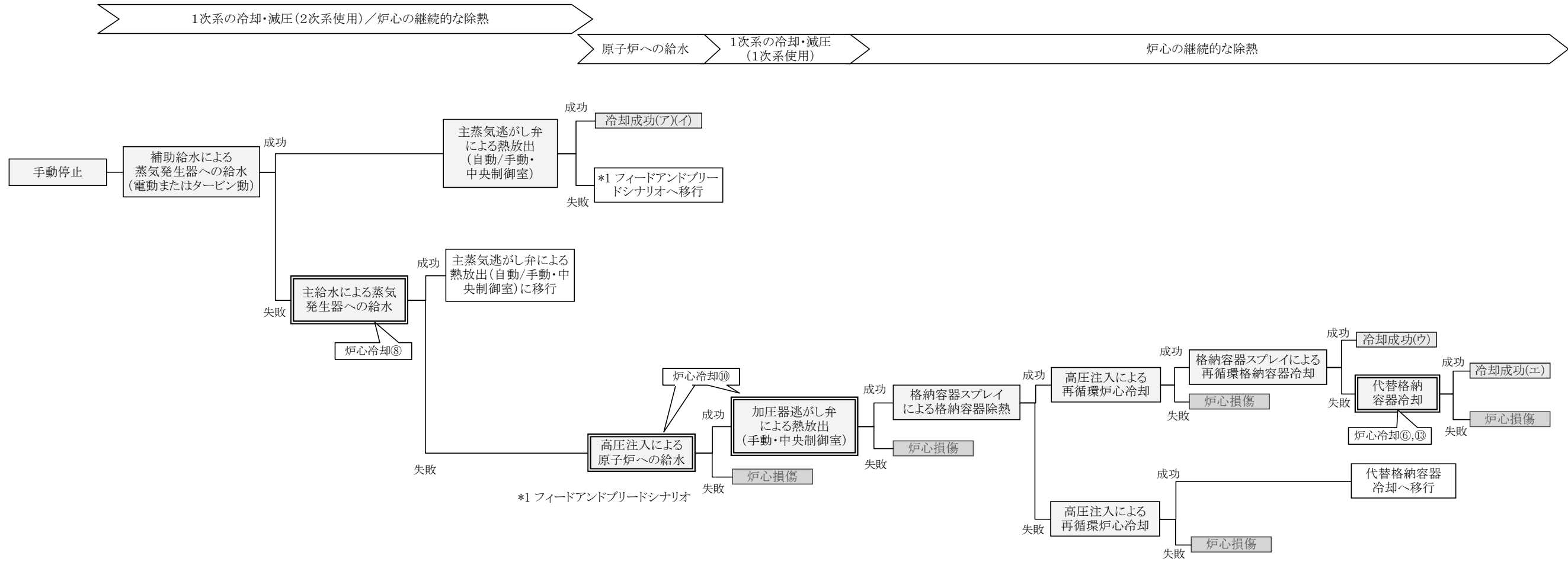
アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 4 : 過渡事象)

・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号（添付 5-(6)-4）を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

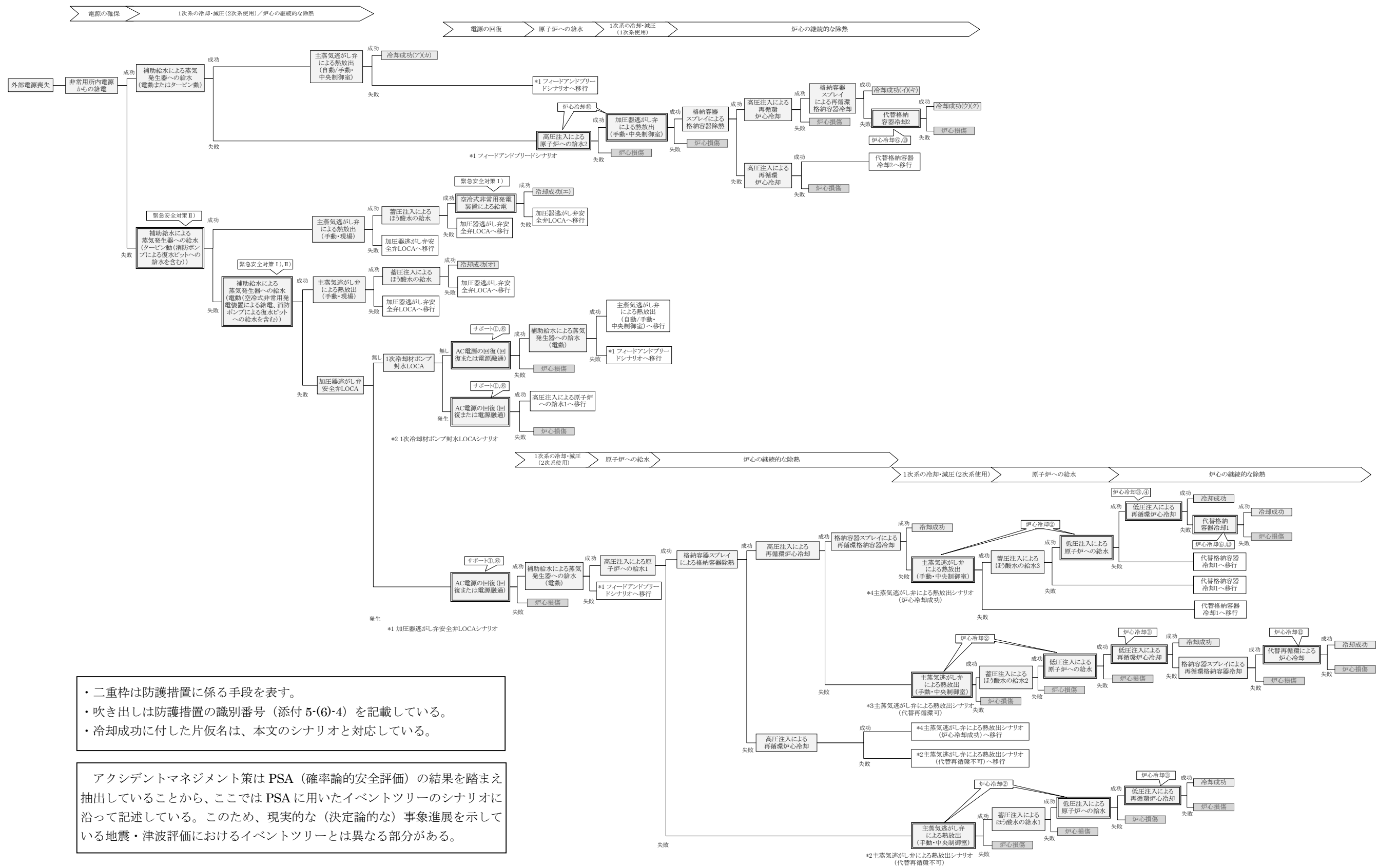
アクシデントマネジメント策は PSA（確率論的安全評価）の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な（決定論的な）事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。



・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号 (添付 5-(6)-4) を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

アクシデントマネジメント策は PSA (確率論的安全評価) の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な (決定論的な) 事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。

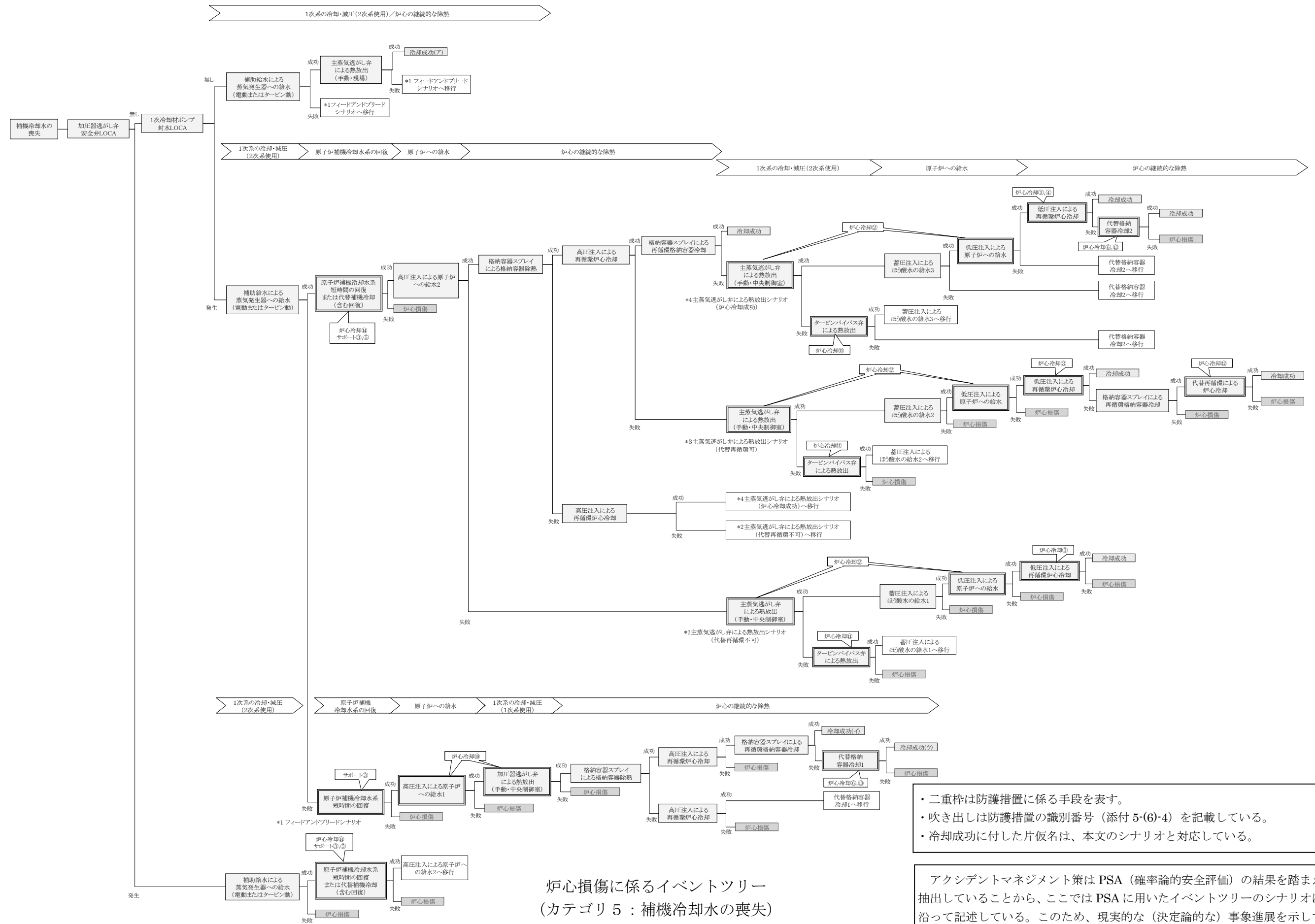
炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 4 : 手動停止)



・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号(添付 5-(6)-4)を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

アクシデントマネジメント策は PSA (確率論的安全評価) の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な(決定論的な)事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。

炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 5 : 外部電源喪失)



炉心損傷に係るイベントツリー
(カテゴリ 5 : 補機冷却水の喪失)

・二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・吹き出しは防護措置の識別番号 (添付 5-(6)-4) を記載している。
 ・冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

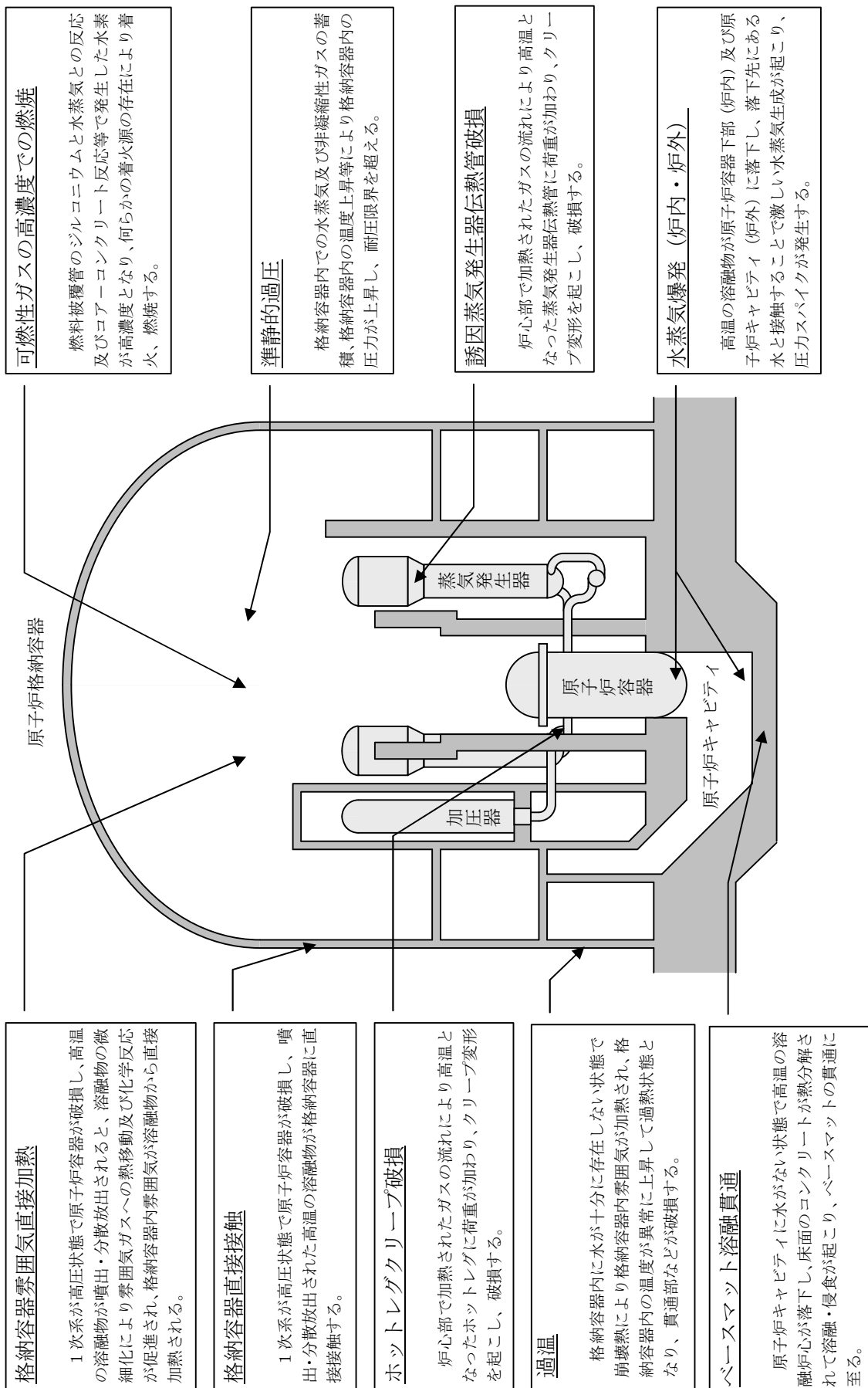
アクシデントマネジメント策は PSA (確率論的安全評価) の結果を踏まえ抽出していることから、ここでは PSA に用いたイベントツリーのシナリオに沿って記述している。このため、現実的な (決定論的な) 事象進展を示している地震・津波評価におけるイベントツリーとは異なる部分がある。

炉心損傷に係るイベントツリーと防護措置の関係

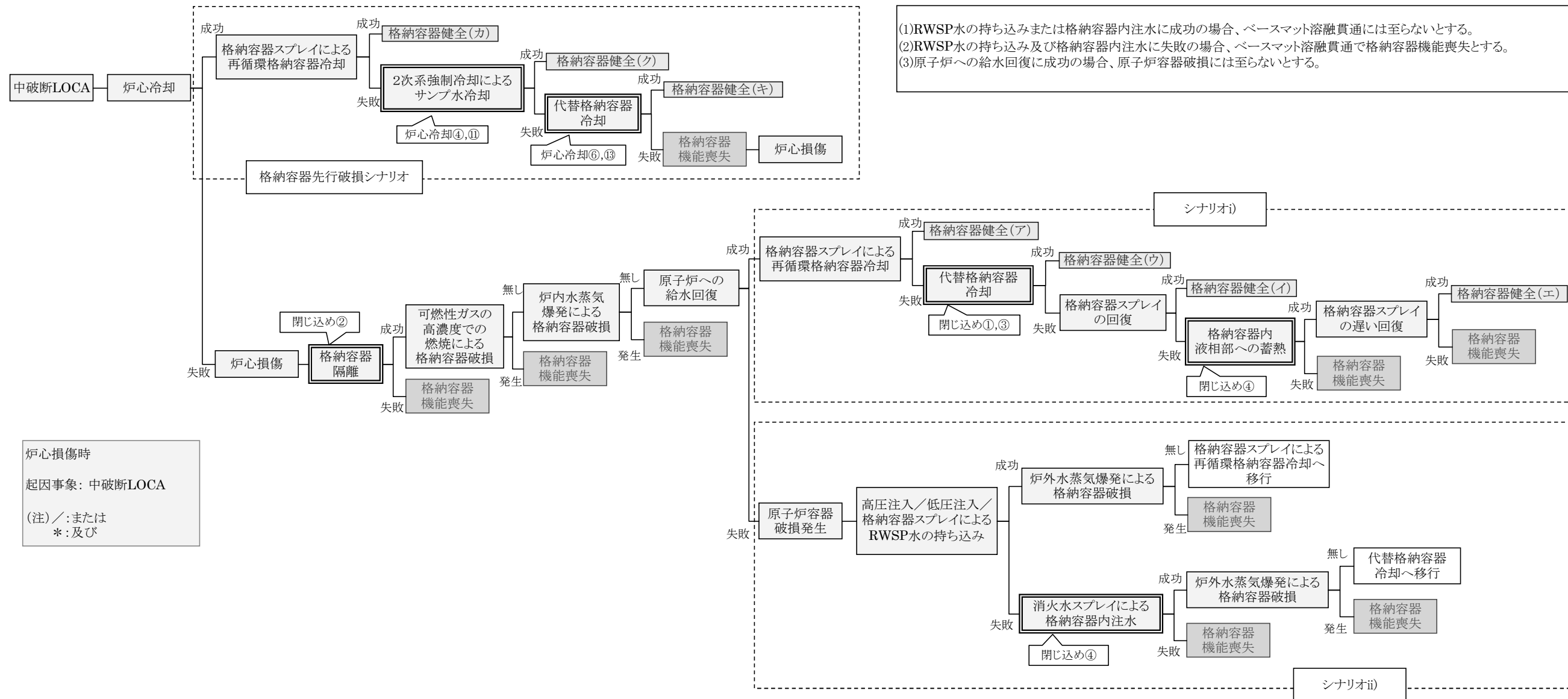
| 機能 | 目的 | 防護措置 | カテゴリ 1 | | | カテゴリ 2 | | カテゴリ 3 | カテゴリ 4 | | | | カテゴリ 5 | | |
|---------------------------------------|---------------------------|----------------------------------|--|-------------|-------------|----------------------|----------------|--------|-----------|--------------|------|------|------------|--------------|---|
| | | | 大破断 LOCA | 中破断 LOCA | 小破断 LOCA | 余熱除去 系隔離弁 LOCA | 蒸気発生器 伝熱管破損 | ATWS | 主給水 喪失 | 2次冷却系 の破断 | 過渡事象 | 手動停止 | 外部電源 喪失 | 補機冷却 水の喪失 | |
| 原子炉の 停止機能 | 原子炉停止 機能喪失の 影響緩和 | ①手動原子炉トリップ | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | ②緊急ほう酸注入 | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | ③緊急2次系冷却 | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | ④緊急2次系冷却の多様化 | | | | | | ○ | | | | | | | |
| 炉心冷却機 能 | ECCS 注入 機能喪失の 影響緩和 | ①代替注入 | ECCS が自動起動しない場合及び高圧注入系の代替として充てん系が使用できる場合の防護措置として有効である。 | | | | | | | | | | | | |
| | | ②2次系強制冷却による低圧注入 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ |
| | | ⑪タービンバイパス系の活用 | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | ECCS 再循環 機能喪失の 影響緩和 | ③2次系強制冷却による低圧再循環 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ |
| | | ⑤水源補給による注入継続 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| | | ⑪タービンバイパス系の活用 | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | | ⑫代替再循環 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ |
| | 格納容器の 除熱機能喪失の 影響緩和 | ④2次系強制冷却によるサンプ水冷却 | | ○ | ○ | | | | | | | | | ○ | ○ |
| | | ⑥代替格納容器気相冷却 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | ⑪タービンバイパス系の活用 | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| | | ⑬格納容器内自然対流冷却 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 漏えい箇所の 隔離機能喪失の 影響緩和 | ⑦1次系注水・減圧 | | | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | | ⑮クールダウン&リサーキュレーション | | | | ○ | ○ | | | | | | | | |
| | 2次系からの 除熱機能喪失の 影響緩和 | ⑧代替給水 | | | | | | | | ○ | | ○ | ○ | | |
| | | ⑨2次系水源補給 | | | | | | | | | | | | | |
| | | ⑩フィードアンドブリード | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ⑪タービンバイパス系の活用 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| II)緊急時の最終的な除熱機能の確保 (復水ピットへの給水の多様化) | | | | | | | | | | | | | ○ | | |
| 安全機能の サポート機 能 | 電源喪失の 影響緩和 | ①電源復旧 | | | | | | | | | | | ○ | | |
| | | ②直流電源確保 | | | | | | | | | | | | | |
| | | ⑥号機間電源融通 | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | | I)緊急時の電源確保 (空冷式非常用発電 装置による給電) | | | | | | | | | | | | ○ | |
| | 補機冷却水喪失 の影響緩和 | ③補機冷却水系回復 | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | | ⑤代替補機冷却 | | | | | | | | | | | | | ○ |
| | 制御用空気喪失 の影響緩和 | ④代替制御用空気供給 | 空気作動弁の作動等制御用空気が要求される場合の代替措置として有効である。 | | | | | | | | | | | | |

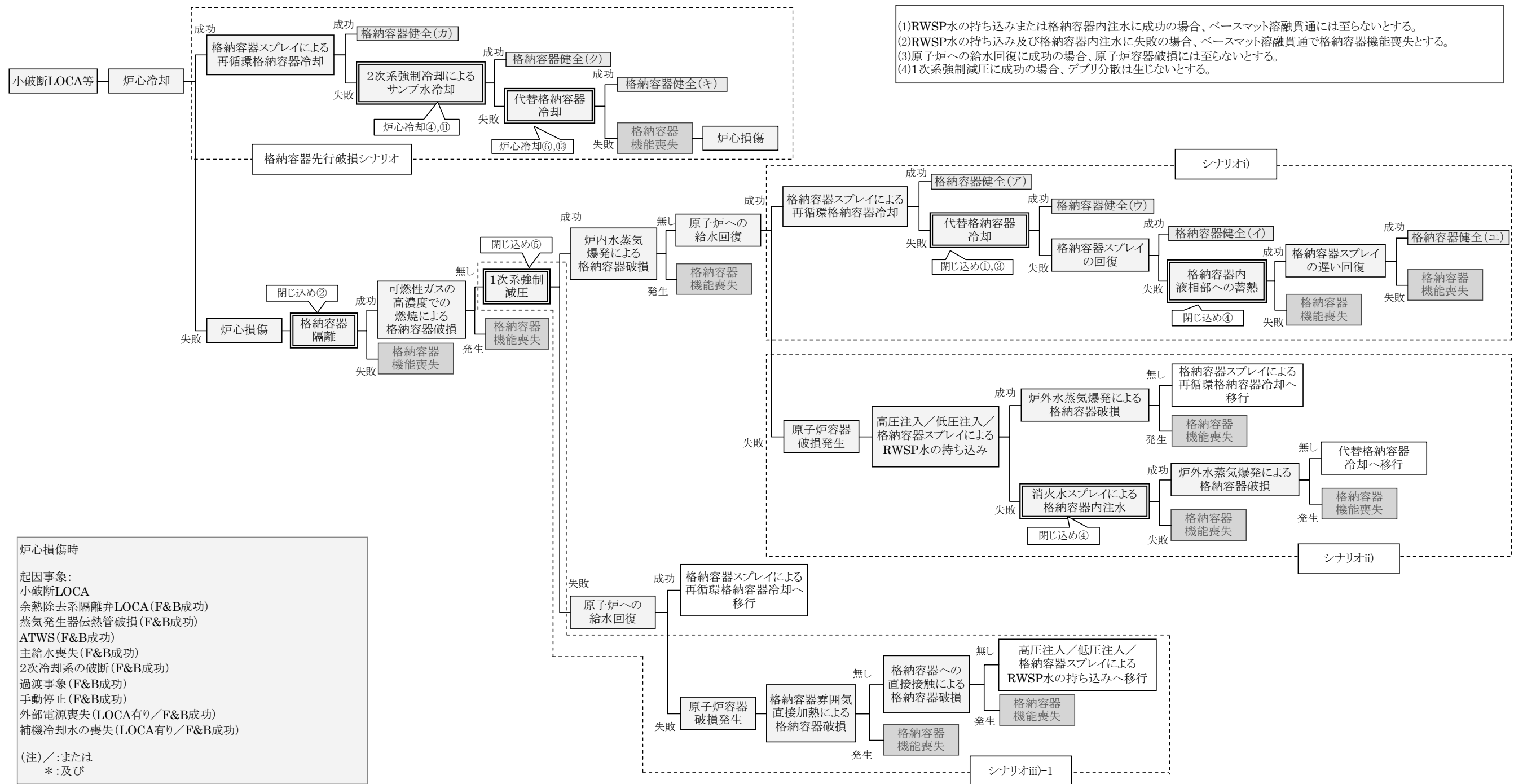
※表中、起因事象毎に有効な防護措置を○で示した。

※網掛けは、緊急安全対策またはシビアアクシデントへの対応に関する措置として、東日本大震災後新たに整備したものの。



格納容器内での事象進展に係る物理現象





(1)RWSP水の持ち込みまたは格納容器内注水に成功の場合、ベースマツト溶融貫通には至らないとする。
 (2)RWSP水の持ち込み及び格納容器内注水に失敗の場合、ベースマツト溶融貫通で格納容器機能喪失とする。
 (3)原子炉への給水回復に成功の場合、原子炉容器破損には至らないとする。
 (4)1次系強制減圧に成功の場合、デブリ分散は生じないとする。

炉心損傷時
 起回事象:
 小破断LOCA
 余熱除去系隔離弁LOCA (F&B成功)
 蒸気発生器伝熱管破損 (F&B成功)
 ATWS (F&B成功)
 主給水喪失 (F&B成功)
 2次冷却系の破断 (F&B成功)
 過渡事象 (F&B成功)
 手動停止 (F&B成功)
 外部電源喪失 (LOCA有り/F&B成功)
 補機冷却水の喪失 (LOCA有り/F&B成功)
 (注) / : または
 * : 及び

・ 二重枠は防護措置に係る手段を表す。
 ・ 吹き出しは防護措置の識別番号 (添付 5-(6)-4) を記載している。
 ・ 冷却成功に付した片仮名は、本文のシナリオと対応している。

格納容器機能喪失に係るイベントツリー
 (グループ 3 : 小破断 LOCA 等)

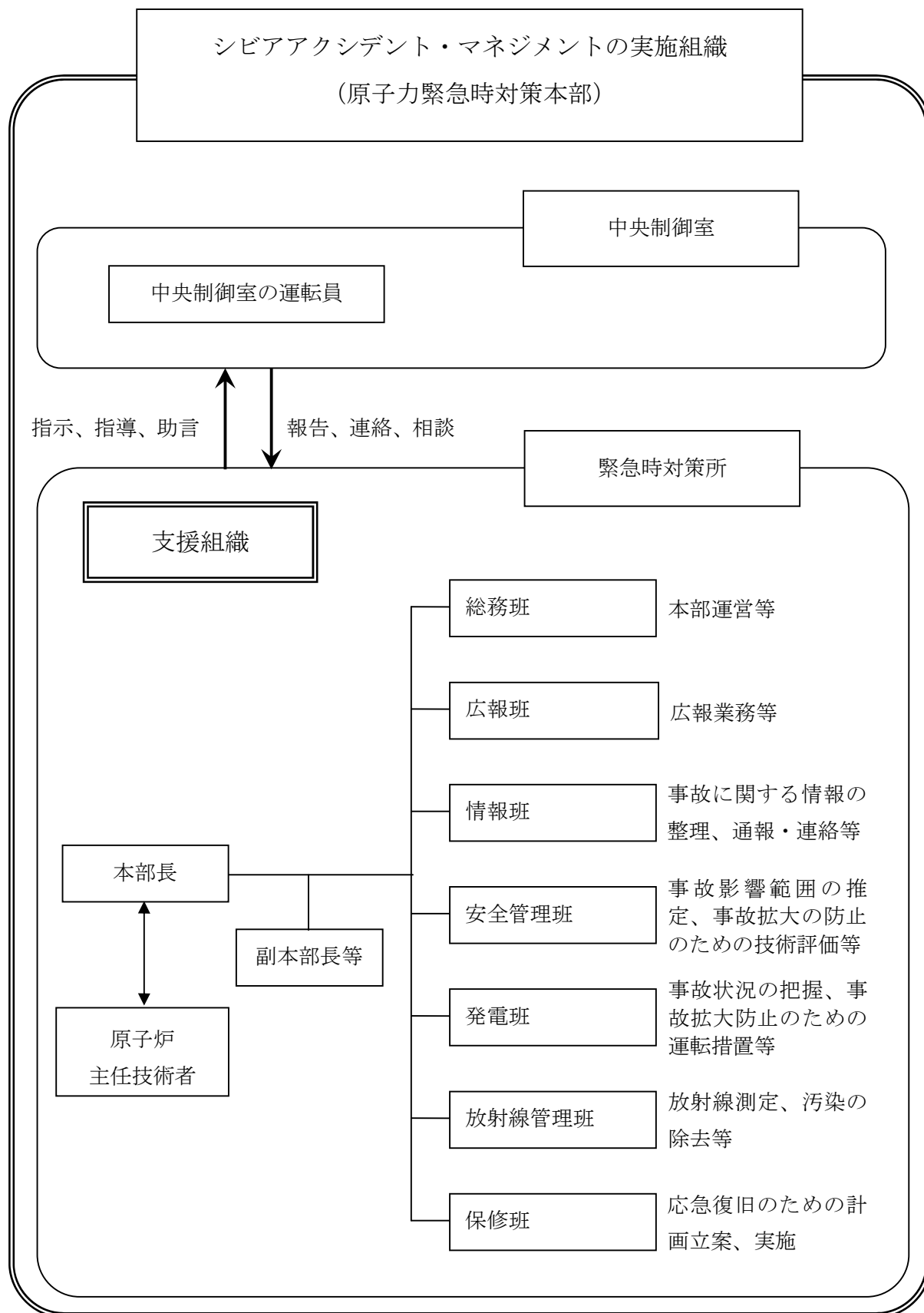
格納容器機能喪失に係るイベントツリーと防護措置の関係

| 機能 | 目的 | 防護措置 | グループ1 | グループ2 | グループ3 | グループ4 | グループ5 | |
|-------------|--------------------|-------------------------------|---|-------|-------|-------|-------|---|
| 炉心冷却機能 | 格納容器の除熱機能喪失の影響緩和 | ④ 2次系強制冷却によるサンプ水冷却 | | ○ | | | | |
| | | ⑥ 代替格納容器気相冷却 | ○ | ○ | ○ | | ○ | |
| | 漏えい箇所への隔離機能喪失の影響緩和 | ⑩ タービンバイパス系の活用 | | | ○ | | | |
| | | ⑬ 格納容器内自然対流冷却 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | ⑦ 1次系注水・減圧 | | | | | | ○ |
| | | ⑮ クールダウン&リサーキュレーション | | | | | | ○ |
| | | ⑩ フィードアンドブリード | | | | | | ○ |
| | | ① 代替格納容器気相冷却 | | ○ | ○ | | | |
| | 放射性物質の閉じ込め機能 | ③ 格納容器内自然対流冷却 | | ○ | ○ | | | ○ |
| | | ④ 格納容器内注水 | | ○ | ○ | | | ○ |
| ⑤ 1次系強制減圧 | | | | | | | ○ | |
| ② 格納容器手動隔離 | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 安全機能のサポート機能 | 格納容器隔離機能喪失の影響緩和 | iv) 水素爆発防止対策 (アニュラスの排気) | 格納容器外に水素が漏えいした場合の防護措置として有効である。 | | | | | |
| | | ① 電源復旧 | | | | | | |
| | 電源喪失の影響緩和 | ② 直流電源確保 | | | | | | |
| | | ⑥ 号機間電源融通 | | | | | | |
| | 補機冷却水喪失の影響緩和 | I) 緊急時の電源確保 (空冷式非常用発電装置による給電) | サポート機能が喪失している場合は、添付 5(6)-4 にまとめた安全機能のサポート機能に係る防護措置が有効である。 | | | | | |
| | | ③ 補機冷却水系回復 | | | | | | |
| | | ⑤ 代替補機冷却 | | | | | | |
| | | ④ 代替制御用空気供給 | | | | | | |

※表中、グループ毎に有効な防護措置を○で示した。

※グループ5は、「炉心損傷に係るイベントツリーと防護措置の関係」における「余熱除去系隔離弁 LOCA」及び「蒸気発生器伝熱管破損」に同じ。

※網掛けは、緊急安全対策またはシビアアクシデントへの対応に関する措置として、東日本大震災後新たに整備したものの。



シビアアクシデント・マネジメントの実施組織の概要

| | | 炉心損傷 | | フェーズII AM | |
|------------------|--------|---|---|--|--|
| 運 転 員 用 | 設計基準事象 | <p>事故時操作所則 (第一部)</p> <p>設計基準事象の想定シナリオに基づき操作手順を記載</p> | <p>事故時操作所則 (第二部)</p> <p>設計想定外の事象が発生した場合に、炉心損傷を防止するための操作手順を記載</p> | <p>手順書移行</p> | <p>事故時操作所則 (第三部)</p> <p>炉心損傷後に、炉心損傷の影響を緩和するための操作手順を記載</p> |
| | 支援組織用 | <p>(緊急安全対策)</p> <p>大飯発電所電源機能等喪失時における原子炉施設の保全のための活動に係る対応所達</p> | <p>事故時影響緩和と操作評価マニュアル</p> <p>シビアアクシデント・マネジメント・マネジメント策を、プラント状態に応じて総合的に判断するための、情報の整理と判断方法を記載したガイドライン</p> <p>シビアアクシデント・マネジメント策を実施する上で必要な、技術的な情報/根拠をまとめたもの</p> | <p>事故時影響緩和と操作評価マニュアル</p> <p>シビアアクシデント・マネジメント策を、プラント状態に応じて総合的に判断するための、情報の整理と判断方法を記載したガイドライン</p> <p>シビアアクシデント・マネジメント策を実施する上で必要な、技術的な情報/根拠をまとめたもの</p> | <p>事故時影響緩和と操作評価マニュアル</p> <p>シビアアクシデント・マネジメント策を、プラント状態に応じて総合的に判断するための、情報の整理と判断方法を記載したガイドライン</p> <p>シビアアクシデント・マネジメント策を実施する上で必要な、技術的な情報/根拠をまとめたもの</p> |

シビアアクシデント・マネジメント関連手順書類の構成概要